

実践女子大学蔵『伊勢物語』関係諸本書誌

上野英子

凡 例

- 一 本稿は実践女子大学図書館（黒川文庫・常磐松文庫・山岸文庫）および文芸資料研究所蔵伊勢物語関係資料の書誌解題である。但し複製・影印・活字本は割愛した。
- 一 全七十五点を〈本文の部〉〈注釈の部〉〈その他〉の三つに大別した。その際注記のある物語本文は前者に、全文掲載の注釈書は後者に分類した。また『異本伊勢物語』（黒川文庫）は物語本文のみの新写本だが、東京国立博物館蔵『伊勢物語絵巻』の本文部分だけを写したものと解されるため、〈その他〉に収めることにした。
- 一 各部内での配列は原則として、成立年代の古いものから写本・版本の順に配列したが、同一資料の場合は、写刊の別を問わず当該箇所を一括するようにした。

一 冒頭に書名・文庫名（登録番号）・図書原簿番号を掲げた。掲出書名の表記は当該本に従った。また資料の一部には文庫番号の無いものもある。

一 片面行数・一行字数は序や総論部分ではなく、物語本文（あるいは注釈本文）で数えた。

一 同版資料ないしその模本と判断したものは、既述した当該資料の書誌と異同のある箇所のみを記した。

一 跋・奥書・識語などは全文を紹介するように努めたが、定家奥書等頻繁に登場するもの等は、抜粋ないし要点だけにとどめたものもある。

一 本文を引用する際、紛らわしい場合を除いて改行記号は省略、字体も通行のものに直した。また原則として訓点・送り仮名・振り仮名等は省略し、私に句読点のみを付しておいた。

一 本文引用の際に次の諸記号を用いた。

・ 朱筆部分には（朱）の記号を付した。

・ 見せ消ち記号は — で統一し、後に（ ）記号を付して訂正本文を載せた。

・ 補入記号は（○）を用いた。

・ 角書き・割注・小双行には「」を冠し、改行箇所には「／」を入れた。

・ 和暦のあとには（ ）記号を付して、西暦を書き入れた。

一 章段の序数は定家本のそれに従った。

一 印記はすべて旧蔵者の印のみを掲示した。

(一) 本文の部

『伊勢物語』(常磐松913・3)(二四三二九)

木箱入り。写本一冊。袋綴(四孔黄色糸、角裂れ付)。

表紙/寸法26・5×22・0 糲。青地金欄緞子(万字整地に桃)布表紙。左肩に金色短冊書題簽貼付。題簽寸法11・1×5・4

糲。鳥の子台紙を金泥で染め、中に一回り小さな雲紙を貼り、雲紙の四周を表紙と同じ金欄緞子で縁取りしたもの。題

字「伊勢物語 全」と墨書。前後見返し共に、金泥霞流し地に金箔・金砂子散らし文様。

極札/前遊紙に琴山印の極札貼付。「土佐一条殿房冬卿〔伊勢物語/むかし男〕琴山〔印〕〔表〕□□□□〔糊付のため解説不可〕

勢物語全□也 (印) (裏)。藤本了因か。

内容/本文料紙厚手の鳥の子。物語本文125段、208首、定家本(流布本)に一致。片面12行×行約21字内外。内題・奥書・識

語等無し。

蔵書印/「原田善太郎之印」(單郭宋正方印)。

備考/昭和53年東京古典会入札会(目録番号?)にて購入。

『伊勢物語』(山岸1158)(九〇二二)

木箱入り。写本一冊。列帖装(八括後綴青糸)。

表紙/寸法23・4×16・5 糲。深緑色地に金糸で草花を織った布表紙。中央に空色地に天辺に金籠をあしらった短冊書題

簽貼付。題簽寸法14・8×2・9 糲。題字「伊勢物語」と墨書。

内容／本文料紙斐紙。見返しは金泥霞流しに金箔・金野毛・金砂子散らし。内題無し。物語本文125段、208首、定家本系。

片面10行×行17字内外。末尾に本奥書三種（根源本奥書・武田本奥書・為相奥書）を付す。

奥書／「抑伊勢物語根源、古人説々不同。或在原中將自記云々。因茲有謙退比興之詞等。又云、伊勢筆作也。」（或云、生年ノ十

三幼童書之。似彼家集文体。是故号伊勢物語。以此兩説案之、更難訣之。心中秘密、身上興言、他人推而難注之。以之可

謂其自書歟。但疑万葉古風之中多載撰集之歌。仁和聖日之間粗記臨幸之儀。此等之事又不審。伊勢家集端又体偏以同之。

是又見先達旧記庶幾其体歟。兩不知之。此物語名字非彼筆者、何称伊勢乎。或説云、為狩使下向伊勢。仍有此名字。其

説難信。始則載南京春日之詞、次注西对夜月之思。富士山之雪、武蔵野烟。凡非伊勢国之事。多以為此物語之肝心。仍

兩説共不審。古事只仰而可信。又或説、後人以狩使事改為此草子之端。為叶伊勢物語之道理也。件本狼藉奇怪者也。伊

行所為也。不用之。

先年所書之本、為人被借失。仍為備證本、重所校合也。戸部尚書在判」（根源本奥書）

奥書／「近代以狩使事為端之本出来。末代之人今案也。不可用之。此物語古人之説不同。或称在中將之自書、或称伊勢

之筆作。就彼此有書落事等。上古之人強不可尋其作意、只翫詞花言葉而已。戸部尚書在判」（武田本奥書）

奥書／「以祖父卿真筆本、不違一字書写校合之。可備證本矣。藤為相」（為相本奥書）

藏書印／「山岸文庫」（複郭朱長方印）「山岸」（單郭墨小型丸印）。

『伊勢物語』（山岸1159）（九〇二四）

帙入り。写本一冊。列帖装（六括朱糸）。

表紙／寸法25・5×18・1糎。紺地金泥（霞流しに草花）紙表紙。表紙中央に金箔書題簽貼付。題簽寸法14・7×2・9糎。

題字「い勢物かたり」と墨書。

内容／本文料紙卵色空押（布目地）鳥の子。見返し白紙。物語本文125段、208首、定家本系（筆跡も定家様）。片面12行×行22字内外。識語有り。内題・奥書等無し。

識語／「伊勢物語一帖。古写流布本也。無奥書焉。昭和四年夷則中元 岸廼舎識」。

蔵書印／「山岸文庫」（複郭朱長方印）

『伊勢ものかたり』（山岸1161）（九〇二六）

帙入り。写本一冊。列帖装（五括後綴白糸）。

表紙／寸法25・0×16・8糎。共紙表紙。表紙左肩に「伊勢ものかたり 全」と墨書。

内容／本文料紙斐紙。内題無し。物語本文125段、208首。定家本系。片面10行×行18字内外。武田本奥書・識語三種。

奥書／「合多本所用捨也。可備證本。近代以狩使事為端之本出来。末代之人今案也。更不可用之。此物語古人之説不同。

或稱在中將之自書。或稱伊勢之筆作。就彼此有書落事等。上古之人強不可尋其作者。不翫詞弄吉葉而已。戸部尚書在判」

識語／「此本何方參候而茂御蜜可被下候 信州佐久群小諸市町 太田源道正」「朱曰白銀十枚新延仙百千萬億袴之儀子賢

物靈清光」

「正保三年（七二四）戊二月吉日 此主一三分 田中より（花押）」

「伊勢物語古写本一帖。大正四年十一月三日求于本郷通焉。一度附表昏装幘。却失古色矣。故再改粘葉裝存者也。昭和四年夷則中元之日 岸廼舎識」。「大正応鐘三 岸のや」。

藏書印／「高市志翫」〔單郭朱長方印〕〔複郭白文朱長方印〕〔二種〕「石川多伸」〔單辺朱長円印〕「山岸文庫」〔複郭朱長方印〕「山岸」〔單辺朱小型丸印〕。

『伊勢物語』(黒川4) (七四七一七)七四七一八)

帙入り。帙題簽「伊勢物語 角倉本」。版本〔古活字版〕上下二冊。袋綴〔四孔後綴白糸〕。

表紙／寸法25・8×19・0糎。打曇紙表紙。左肩に「伊勢物語 上〔下〕」と墨書。上冊は右肩に「角倉本」その左下に

「共二冊」と墨書。

版式／無辺〔字高22・1糎〕無界〔片面9行×行17字内外〕。版心注記事項無し。挿絵四八枚〔二画二丁〕入り。

内容／本文料紙雲母刷色替〔白・卵色〕料紙。前遊紙一丁。上冊は二丁裏、下冊は二丁表より本文が始まる。序・内題等無し。

挿絵入り物語本文。上冊は初段から44段、下冊は45段から125段まで。末尾に跋文・刊記。

跋／「伊勢物語新刊世酷多矣。然京極黃門一本之奥書云。此物語之根源古人之説々不同云々。而今天福年所被与孫女本正之。猶恐有字盡之差互聊加訂校。又図卷中之執而分為上下。蓋為令好事童蒙慕悦目也。於戲予老瀨裏情而不堪。弁烏焉。豈無誤謬。博治君子改匡焉幸甚。」

刊記／「慶長己酉〔十四年、一六〇九〕仲春上澣日」。

識語／「文政とし。のせ。の。の。いる正月学古堂かりあさくさにもとめぬ印」。

藏書印／「光慎」〔單郭墨長方印〕〔單郭墨正方大形印〕〔二種〕「墨農」〔複郭朱長方印〕「幽真閣図書記」〔單郭朱正方印〕「黒川真頼藏書」〔單郭朱長方

印〕「黒川真道藏書」〔單郭朱長方印〕「物語」〔單郭朱丸印〕「筒井藏書」〔單郭朱丸印〕。

『伊勢物語』(黒川5) (七四七一九)

帙入り。帙題簽「伊勢物語 寛永版」。版本 整版 上下合一冊。袋綴（四孔後補白糸）。全冊裏打ち補修済み。

表紙／寸法 28・3×20・0 浬。白地に青・黄流水模様後補紙表紙。表紙の裏の芯紙に反故紙（大福紙）使用。左肩に金箔書題簽貼付。題簽寸法 18・4×4・9 浬。題字「伊勢物語」と墨書。表紙右上に「寛永版」と朱書。

版式／無辺（字高21・0 浬 無界（片面行数8、12行×行15、21字内外）。版心注記事項なし。

内容／本文料紙楮。1丁裏より物語本文がはじまり、1丁表は白紙。そこに後代の書き入れ注記（粟平卒伝の抄出）が記載。上巻は初段から48段まで（48段の裏白紙）。下巻は49段から125段まで、末尾に跋。

跋／「抑京極黄門一本之奥書云。此物語之根源古人之説々不同云々。故去慶長戊申仲夏之比。中院也足軒素然以天福年所被与孫女本正之。并加畫図卷中之趣兮。以為上下行于世矣。今亦以其印本正之。并令流布是而已 寛永己巳（六年、一六二

九 孟夏日」

蔵書印／「□井高朗之図書記」（單郭朱長方印）「松田蔵書」（單郭墨長方印）「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）

「物語」（單郭朱丸印）。

備考／朱墨書き入れ多数。なかには後綴以前の書き入れもある。

『伊勢物語』（山岸1164）（九〇三〇）（九〇三二）

帙入り。版本（整版）上下二冊。袋綴（五孔紺糸）。山岸1163の異版

表紙／寸法 27・4×18・5 浬。紺無地紙表紙。左肩に白地刷り題簽貼付。題簽寸法 18・4×3・6 浬。題字「伊勢物語 上（下）」。

版式／無辺（字高21・9 浬 無界（片面12行×行19字内外）。版心注記・挿絵無し。隠し丁付有り。

内容／本文料紙楮。序・内題無し。上冊は初段から48段、下冊は49段から125段まで。下冊見返しに跋（黒川4に同）と刊記。跋／「伊勢物語新刊、世酷多矣。然京極黃門一本之奥書云、此物語之根源古人之説々不同云々。而今以天福年所被与孫女本正之。猶恐有字畫之差互聊加訂校。又凶卷中之趣而分為上下。蓋為令好事童蒙悅目也。於戲（下）老懶衰惰而不堪弁烏焉。豈無誤謬。博治君子改匡焉幸甚。」

刊記／「時寛永式拾（癸ノ末）六四三 良月吉辰 中村宗道庵重新刊」

蔵書印／「山岸文庫」（複製朱長方印）「山岸」（單郭墨小型丸印）。

備考／上冊冒頭より数丁に、墨書書き入れがある。

『真名伊勢物語』（黒川6）（七四七二〇）

帙入り。帙題簽「真名伊勢物語 古写本」（墨書）。写本上下二卷一冊。袋綴（五孔後綴白糸）。

表紙／寸法26・4×19・0糎。縹色無地厚紙表紙。左肩に金泥霞流し雲紙書題簽貼付。題簽寸法19・1×3・6糎。題字

「真名伊勢物語 全」と墨書。表紙右肩に「古写本」と朱書。

内容／本文料紙楮。全冊補修済み。内題「真名伊勢物語 六条宮御撰」「真名伊勢物語下 六条宮御撰」。全文漢字表記・朱筆による片仮名総ルビ付きの物語本文。124段207首。流布本と比較すると、29段の次に異伝が入り、40段で「いつくまて」の歌が加わり、50段で「ゆく水とすぐるよはひと」の歌が欠落、115と120段を欠く等の異同がみられる。片面8行×行20字。奥書無し。

識語／「意通」（上下最終丁に各墨書）。

蔵書印／「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真頼」（單辺朱丸印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）。

備考／全冊に寛永版本と同じ片仮名による訓読文、本文訂正等の朱筆が入る。山田清市『伊勢物語校本と研究』（昭和五二年）
楓桜社で校合本に用いられた本文。

『真名伊勢物語』（黒川 7）（七四七二一）

帙入り。版本（整版）上下合一冊。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法26・2×18・1種。青灰色無地後補紙表紙。表紙左肩に「真名伊勢物語 全」と墨書。

版式／四周单边（内郭20・4×15・5種 無界（片面8行×18字）。版心に線黒口・上下花口魚尾・版心題「いせ」巻序「上（下）」丁付

「一（廿四終）」「一（三十二）」を記載。

内容／本文料紙楮。内題「真名伊勢物語 六条宮御撰」「真名伊勢物語下 六条宮御撰」

全文漢字表記・平仮名総ルビ付きの物語本文。125段206首。黒川6と比較すると、111段を二つに分ける、121段の「うぐひすの花を逢ふてふ笠はいな」の歌を欠く等の異同がある。刊記有り。奥書・識語無し。

刊記／「寛永廿（癸）未（二六四三）歳九月吉日 二条通稱屋町 澤田庄左衛門板行」。

蔵書印／「黒川真頼蔵書」（単郭朱長方印）「黒川真頼」（単辺朱丸印）「黒川真道蔵書」（単郭朱長方印）「物語」（単郭朱丸印）。

備考／全冊に朱墨の書き入れがあり、欄外書き入れの一部が途切れている。書き入れ後に化粧裁ちしたもの。虫損等傷みあり。

『真字伊勢物語』（黒川 8）（七四七二二～七四七二三）

帙入り。版本（整版）上下二冊。袋綴（五孔黄糸）。

表紙／寸法27・3×18・8糎。白地に渋引紙表紙。左肩に複郭刷題簽貼付。題簽寸法17・7×3・1糎。題字「真^{マコト}字伊勢物語 上」「真^{マコト}虫損^{ムシノミ}語 下」。

版式／四周單辺（内郭20・3×15・7糎 無界（片面8行×行18字））。版心に線黒口・上下花口魚尾・版心題「いせ」巻序「上（下）」。丁付「一（廿四終）」「一（三十二）」を記載。

内容／本文料紙楮。内題「真名伊勢物語 六条宮御撰」「真名伊勢物語下 六条宮御撰」。

全文漢字表記・平仮名総ルビ付きの物語本文。刊記有り。奥書・識語無し。

刊記／「寛永廿（癸）（二六四三）歲九月吉日（二条通） 澤田庄左衛門板行（刊記の丁の匡郭に切れ目あり）。

藏書印／「賢木園文庫」（複郭朱長方印 内藤広前）「黒川真頼藏書」（單郭朱長方印）「黒川真頼」（單辺朱丸印）「黒川真道藏書」（單郭朱長方印）。

「物語」（單郭朱丸印）。

備考／該書は黒川7と同様の版木を用い、刊記の一部に入木したものか。書き入れ・虫損のない美本だが、版面は黒川7の方が鮮明。

『真名伊勢物語』（山岸1162）（九〇二七）

帙入り。版本（整版）上下合一冊。袋綴（四孔黄糸）。黒川8と同版。以下異同箇所のみ記す。

表紙／寸法25・5×18・5糎。白地に黄横縞入り後補紙表紙。左肩に薄茶地に緑菱繋ぎ蠟箋書題簽貼付。題簽寸法19・

3×3・3糎。題字「真名伊勢物語 上下」と墨書（但し巻序は既存の文字の上に重ね書きしたもので、書名とは墨色も別）。

版式／内郭20・3×15・6糎。刊記掲載丁の匡郭に黒川8と同じく複数の切れ目がある。

識語／「大正十五年応鐘中流 岸廼舎」。

蔵書印／「豫宰館」(白文。朱長方印) 「山岸文庫」(複郭朱長方印) 「山岸」(単郭朱小型丸印)。

『伊勢物語』(山岸1163)(九〇二八〜九〇二九)

帙入り。版本(整版)上下二冊。袋綴(五孔白糸)。

表紙／寸法28・0×18・5糎。紺無地紙表紙。上冊表紙左肩に白地刷り題簽貼付。題簽寸法23・0×4・0糎。題字「伊勢物語 下」。その上から「上」と墨書。表紙右下に「共二」と墨書。下冊は題簽剥離。その痕に「伊勢物語 下」と墨書。

版式／無辺(字高21・2糎 無界(片面12行×行19字内外)。版心注記無し。隠し丁付有り)。

内容／見返し白紙(後に識語が加わる)。本文料紙紙楮。内題無し。上冊は初段から48段まで、下冊は49段から125段まで。本文は寛永本と同じだが、章段の頭に段数を入れ、濁点と句点を補う。絵入り(嵯峨本・黒川4の挿絵と同じ)。跋・刊記。

跋／「伊勢物語新刊。世酷多矣。然京極黃門一本之奥書云。此物語之根源古人之説々不同云々。而今以天福年所被与孫女本正之。猶恐有字畫之差互聊加訂校。又函卷中之趣而分為上下。蓋為令好事童蒙悅目也。於戲_子老懶衰惰而不堪弁烏焉。豈無誤謬。博_子台君子改匡焉幸甚。」

刊記／「正保二乙酉(一六四五)良月吉辰重新刊」。

識語／「文化年改 山田船着 中津氏」「文化三歳 山田船着町 中津氏」。

蔵書印／「□」(壺形輪郭墨印)。「山岸文庫」(複郭朱長方印)「山岸」(単郭墨小型丸印)。

備考／山岸1164の異版か。挿絵の有無を除いて版式は同じ。但し1164の方が版面は鮮明である。

『絵入り伊勢物語』（山岸 1157）（九〇二二）

帙入り。版本（鑿版）一冊。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法 22・5 × 16・0 糎。香色地に銀泥草木細画入紙表紙。左肩に白無地書題簽貼付。題簽寸法 17・0 × 4・7 糎。

題字「絵入り伊勢物語 完」と墨書。

版式／四周单边（内郭 19・5 × 13・8 糎）。二段組。各丁とも上段に物語本文、下段に挿絵 131 図を入れる。物語本文は無界（片面 11

一行 × 行 17 字内外。版心注記無し。

内容／本文料紙楮。口絵・総論・物語本文（全 125 段）と挿絵・奥書二種・刊記。

奥書／「定家卿奥書云、近代以狩使事為端之本出来、末代之人今案也。更不可用之。此物語古人之説々不同。或云在中将

之自書。或称伊勢筆作。就彼此有落事等。上古之人、強不可尋其作者。只可翫詞花。」（武田本奥書）

奥書／「世間流布する所の伊勢物語、板本多しといへとも清濁文字のあやまり有につき、此度正本を求て是を改絵図にし

て、文句のころをしらしむ事えいじの見安からんかため歟」

刊記／「元禄十年丁丑（二六九七）晩夏日（江戸芝増上寺前）玉屋次郎兵衛／榎並甚兵衛」

識語／「昭和六年仲呂六 岸廼舎」

蔵書印／「来□」（単邊墨丸印）「山岸文庫」（複郭朱長方印）「岸廼舎藏」（複郭朱長方印）「山岸」（單郭墨小型丸印）。

備考／章段数・傍注・入集注記・濁点・句点の記載あり。下段の挿絵に一部色が入るが後代の彩色か。

『旧本伊勢物語』（黒川文庫 9 a）（七四七二四～七四七二五）

建部綾足撰。帙入り。版本（鑿版）上下二冊。袋綴（五孔茶糸）。

表紙／寸法27・0×19・0種。青灰色地に茶色で梅枝を刷った紙表紙。中央に白地複郭刷題簽貼付。題簽寸法19・5×

3・4種。題字「旧本伊勢物語 上(下)」。上冊のみ、右肩に「真頼書入本」と朱書。

内題／「楷書勢語序」「伊勢物語卷上(下)綾太理校訂」「伊勢物語卷上(下)終」

版式／四周单边(内郭20・1×15・1種)無界(片面8行×行21字)白口・上黒魚尾。版心には版心題「伊勢物語」と巻序「卷上(下)」

丁付「一(一十三)」「一(三十一終)」を記載。

内容／本文料紙楮。序文・物語本文・刊記。物語は真名表記に総片仮名ルビ付き。計127段209首。真名伊勢物語(黒川6)と比較すると、11段を二つに分ける、115と120段を加える等の異同がある。

序文／「勢語古書也。其行于世久之。而未曾有詳其撰人者。蓋天曆以後好事士之所述也。原本楷字、後欲施諸兒女。写以國字、於是疑誤者多矣。今坊間數本、互有異同。吾誰適從哉。余方外友東都綾太理篤古学善國雅。嘗訪遺失旧聞、搜索二酉陳編。及獲斯写本。雖有闕誤、而較諸坊間國字書、文義精確也。珍之十襲不啻哉。頃門人某請梓之。以公同好乃不得辭。闕者補誤者刊、校而授焉。且録諸本異同以附焉已而。刻成請序於余。余觀此盛举而嘆曰、古称不究河源。恐賭臆崙者哉。若欲識斯書真面目者、必繇乎是。明和五戊子(一七六六)冬至金龍鳩杜多撰 平安東堤橋富之書」。

刊記／「明和六年(一七六九)初秋發行 風月莊左衛門」。

識語／「旧本伊勢物語新釈 金子真頼」「嘉永三年八月廿三日夜燈下盡記畢」「伊勢物語 新釈 金子真頼」「右者改建部綾足之校訂本之誤而校合補注畢 真頼」「あさりするいせをのあまのくにかみのみたれこしすちをとけ(き)わけてけり 嘉永三年九月八日 書記終」。

蔵書印／「黒川真頼蔵書」(單郭朱長方印)「黒川真頼」(單辺朱丸印)「黒川真道蔵書」(單郭朱長方印)「物語」(單郭朱丸印)。

備考／六条宮本系の真名伊勢物語を綾足が校訂したもの。綾足は諸本との異同を『旧本伊勢物語考異』として一冊にまと

めた。該書と装丁が同じことから、本文篇二冊と考異一冊、計三冊揃いで刊行されたものであろう。なお該書には全冊に真頼の書き入れ注記がある。

『旧本伊勢物語考異』（黒川9b）（七四七二六）

建部綾足著。帙入り。版本（整版）一冊。袋綴（五孔白糸）。

表紙／寸法27・1×18・8種。表紙は黒川9aに同じ。但し原題簽はなく、左肩に白地後補書題簽を貼付する。題簽寸法19・4×3・9種。題字「旧本伊勢物語考異」と墨書。

内題／「伊勢物語考異凡例」「伊勢物語卷上（下）考異」「伊勢物語考異終」。

版式／四周单边（内郭20・2×15・3種）無界（片面10行×行26字）白口・上黒魚尾・版心題「伊勢物語考異」。版心に丁付（一（十二終））記載。

内容／本文料紙楮。凡例ならびに序・本文考異・刊記。

凡例／「伊勢物語考異は此冊子のいさ、かも違へる物はことくあつめ、詞のたがひめは彼とあはせて考へあるべきものはしるしつ。…こたび新に彫れる冊子は旧本とて人のもてりし物なり。得て是を讀にそが中にはまさしに写したがへ或はかい落したりなど見ゆる事いと多し。よて世に真名六条本といふ冊子を引あはせて、をちちかうかへとりしものなり。されど世の中にいにしへをしのぶ人は此考異によりて、なほ本文のたがひめをも正したまはば、おのれらがさいはひならむ綾太理しるす」。

刊記／「明和六年己丑（一七六九）初秋発行 風月庄左衛門」。

蔵書印／「菘園」（白文朱角印）「黒川真頼蔵書」（単郭朱長方印）「黒川真頼」（單辺朱丸印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸

印。

備考／文政十三年九月付田中大秀書簡等の記された刷り物一枚添付。

『旧本伊勢物語』（山岸1152）（九〇〇〇〇九〇〇一）

帙入り。版本（整版）上下二冊。黒川9aに同じ。

異同箇所／袋綴（五孔深草糸）。表紙寸法26・5×18・6糎。表紙左肩に白地複郭刷題簽貼付。題簽寸法19・3×3・4糎。

内郭19・9×15・7糎。

蔵書印／「前川」〔單郭朱小型長円印〕「山岸文庫」〔複郭朱長方印〕「山岸」〔單郭朱小型丸印〕。

『伊勢物語考異』（山岸1151）（八九九九）

建部綾足著。帙入り。版本（整版）一冊。黒川9bに同じ。

異同箇所／袋綴（五孔黒糸）。表紙寸法26・4×18・6糎。表紙左肩に白地複郭刷題簽貼付。題簽寸法19・3×3・6糎。題

字「伊勢物語考異」。内郭20・4×15・9糎。

識語／「大正十三年林鐘廿五地久節之日求之 岸廼舍」〔墨書〕。

蔵書印／「前川」〔單郭朱小型長円印〕「山岸文庫」〔複郭朱長方印〕「山岸」〔單郭朱小型丸印〕。

『旧本伊勢物語』（常磐松913・3）（三六三〇九）

版本（整版）上・下・考異三冊合一冊。黒川9aと9bを合綴したもの。

異同箇所／五孔緑糸。表紙寸法27・1×18・9浬。表紙中央に白地複郭書題簽貼付。題簽寸法19・5×3・9浬。題字「勢語 附考異」と墨書。表紙右下に「今村図書」の書票貼付。内郭20・3×15・3浬。

蔵書印／「HKIMAMURAS/No733/LIBRARY」(複郭青楕円形スタンプ印)

『伊勢物語考異』(常磐松913・3)(三六三〇八)

版本(整版)一冊。黒川9bに同じ。

異同箇所／五孔後綴紫糸。表紙寸法27・3×18・9浬。表紙中央に白地複郭刷題簽貼付。題簽寸法19・3×3・3浬。題字「伊勢物語考異」。表紙右肩に「杉浦文庫」の書票貼付。内郭20・2×15・2浬。

蔵書印／「大橋文庫」(複郭朱長方印)「居学齋蔵書記」(単郭朱長方印)。

『正本伊勢物語』(黒川10)(七四七二七〜七四七二八)

帙入り。写本二冊。袋綴(四孔白糸)。

表紙／寸法26・4×18・1浬。白地に薄墨にて草木刷紙表紙。左肩に白無地書題簽貼付。題簽寸法18・6×3・4浬。題字「正本伊勢物語 乾(坤)」と墨書。

内容／本文料紙格。物語本文125段(乾冊初段〜66段・坤冊67〜125段)。計208首(40段で「いつこまでおくりはし」との一首が加わり、50段で「ゆく水とすくるよはひと」の歌を欠く)。片面9行(22丁より7行)×行19字内外。巻末に本行と同筆で、藤井高尚『伊勢物語新釈』の序および総論記事の一部を抜粋する。内題・奥書・識語無し。

蔵書印／「黒川真頼蔵書」(単郭朱長方印)「黒川真道蔵書」(単郭朱長方印)「物語」(単郭朱丸印、黒川家が表紙に捺した分類印)。

備考／朱墨の本文訂正が加わる。

『伊勢物語』（山岸3253）（G一六一五）

帙入り。新写本一冊（上冊欠か）。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法27・1×19・7糎。洪染紙表紙。左肩に白地銀砂子散らし書題簽貼付。題簽寸法16・8×3・4糎。題字「伊

勢物語」と墨書。表紙右肩に「黒川文庫本（狩使本）」と墨書。

内題／「伊勢物語」（扉題）。

内容／本文料紙三極紙。扉一丁。物語本文（71段から125段まで）。片面9行×行12字内外。書写奥書・識語。

書写奥書／「昭和二七年七月一日 君島智子」（鉛筆書き）

識語／「伊勢物語狩使本 実践女大黒川家旧蔵本也。為参考書写者也。昭和二十七年七月十五日国文科四年生君島智子影

写云々岸廼舎」「狩使本七十一段以後抜書本ナルベシ 可信用非本文也」。

蔵書印／「山岸文庫」（複製墨長方印）（複製朱長方印）（二種）

備考／底本となった黒川本は不明。

『古今和歌』伊勢物語（常磐松）（二六三二〇）（三六三二一）

著者不明。版本（整版）上下二冊揃。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法26・5×19・2糎。青灰色空押（布目地）紙表紙。中央に卵色複郭刷題簽貼付（但し下冊は剥落）。題簽寸法19・2×

4・0糎。題字「古今和歌 伊勢物語」〔欠損〕一。

内題／〔封面題〕「改正／絵入 古今和歌集／和歌威徳集／〔よみくせ付／傍注大成〕伊勢物語」。(巻首題)「古今和歌集」「和歌奇妙談」
「伊勢物語」(尾題)「伊勢物語終」「奇妙談終」

版式／四周単辺(内郭24・1×16・3種)無界。1丁表のみ二段組(上段「古今和歌集序」下段「伊勢物語作者之説」)1丁裏より三段組(上から順に

古今和歌集・和歌奇妙談・伊勢物語の各本文を揭示。伊勢物語は片面13行×行14字内外)。版心に版心題(「古今和歌集」威徳)「伊勢物語」巻序と丁付(「一」(四十終)「一」(三十七終))を記載。各段それぞれに挿画(計76図)入り。

内容／本文料紙楮。(上冊)総論・物語本文初段〜62段(下冊)63〜125段・定家奥書・書肆宣伝・刊記

総論／「…されば古人の御説にもまづなりひら自記の双紙ありしうへに伊勢さまの事を書そへて作り物語となして宇多院の後宮七条のきさき温子のかたへ奉りしといふに決せり」。

奥書／「定家卿奥書之写／近代狩使事為端之本出来、末代之人今案也。不可用此物語。古人説不同…戸部尚書在判」
宣伝／「本居先生著述書之内板行出来 (「松坂文海堂／皇都華箋堂」)。

刊記／「寛政十一年己未(二七九) 初秋 発行書林(勢州松阪日野町柏屋兵助／京都三条通柳馬場東入ル町銭屋利兵衛)。
備考／識語・旧蔵者印記なし。

『参考伊勢物語』(黒川33)(七四七八七〜七四七八九)

屋代弘賢著。帙入り。版本(整版)三冊(上下二冊付録一冊)。袋綴(四孔黄糸)。

表紙／寸法26・3×18・2種。薄縹色空押(布目地)紙表紙。中央に白地単郭刷題簽貼付。題簽寸法17・8×3・5種。題字「参考伊勢物語 上(下・付録)」。第一冊目表紙右肩に「屋代弘賢著」と墨書。

内題／〔封面題〕「文化十四年丁丑(二八一七)新雕／輪池屋代先生著／参考伊勢物語附録／發行慶元堂」

版式／（上下冊）無辺（字高20・1種）無界（上下冊、片面10行×行22字・附録、片面12行×行25字）・版心に記載なし。のどに隠し丁付有り。

内容／本文料紙楮。物語本文。本文中に割注形式で御本（塗籠本）・家本（為家本）・時本（時頼本）・印本（整版）との校異を記す。

（上冊）序二種（揃保己一序・文化十年三月二十四日自序）・印本との章段対照表・物語本文初段（65段）（下冊）66～125段（附録）注釈（各章

段より難語12項目を選び、注を施したもの）・文化十四年跋・刊記。

刊記／「文化十四年仲春刻成／製本弘所〔京都書林堀川高辻上ル植村藤右衛門／大阪書林心齋橋安堂寺町秋田屋太右衛門／江戸書

林浅草新寺町和泉屋庄次郎／池端仲町須原屋伊八〕／彫工 朝倉八右衛門」

蔵書印／「慶」（單郭墨角印）「戲」（單郭墨丸印）「橋泉」（單郭墨丸印）「亜川文庫」（單郭朱長方印）「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真頼」（單郭朱丸印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）

（單郭朱丸印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）

『参考伊勢物語』（山岸1150）（八九九六～八九九八）

黒川33の異版。以下、異同箇所のみ記す。

異同箇所／四孔後補黄色糸。表紙寸法26・4×18・8種。第3冊目（附録）のみ黄緑色無地紙表紙に角切付き。題簽寸法

17・2×3・0種。封面題無し。該書の下冊は黒川33でいう「下冊」に「附録」一冊を合綴したもの。但しこの「附録」

は無刊記。これに更に第三冊目として後見返りに刊記のある「附録」が加わる。

蔵書印／「大岡文庫」（復郭朱長方印）「今杜河合之家」（單郭朱正方印）「河合氏図書之記」（單郭朱正方印）。

(二) 注釈書の部

『伊勢物語知顕集』(黒川12) (七四七三〇)

伝源経信著。帙入り。写本三冊合一冊。袋綴(四孔白糸)。

表紙/寸法26・8×19・4糎。洪引紙表紙。左肩に「伊勢物語/知顕集」と墨書し、その下に「全本」と朱書。表紙右肩に「岸本由豆流自筆写本」と墨書。

内題/「知顕集上 大納言源経信作」「知顕集中」「知顕集下」。

内容/本文料紙楮。(上冊)序言(中冊)初段~28段までの注(下冊)29段~125段までの注。問答体形式の注釈で、片面12行×行30字内外。奥書無し。

蔵書印/「黒川真頼蔵書」(單郭朱長方印)「黒川真道蔵書」(單郭朱長方印)「物語」(單郭朱丸印)。

備考/統群書類従本系。『統群書類従』18輯上所収知顕抄では該書を校合本としている。前見返しの朱筆書き入れ注記に「この書は大納言源経信卿のある人の間にこたへられし詞を口伝にして、それをふみにかきつたへたるものものなるへし。中巻「丁」を大納言のいはくなくといふことは見返たり」「経信卿は六条左大臣重信公の孫、権中納言道方卿の子、白川院の承保二年権中納言、同天皇の永保のはしめ権大納言に任らる」とある。また本文中にも波線や見出し語・章段数の書き入れ多数。柱に丁付を記載する。

『和歌知顕集』(黒川13) (七四七三二)

伝源経信著。帙入り。新写一冊。袋綴(五孔後綴茶糸)。

表紙／寸法27・6×20・3種。香色無地後補紙表紙。左肩に「和歌知頭集〔序詞言〕卷二止全」右肩に「伊勢物語注」と墨書。

内題／「和歌知頭集／序詞言 大納言源経信」「和歌知頭集第一／伊勢物語大事」「和歌知頭集卷第二 大納言経信／伊勢物語娉放集」。

内容／本文料紙三極紙。「序詞言」は7丁。「第一」には「鳥」と「風」による問答体形式の総論が18丁、「卷第二」には承前の総論と初段から四段までの問答体形式による注30丁を掲載。片面12行×行23字内外。奥書・識語等無し。

蔵書印／「黒川真道蔵書」〔單郭朱長方印〕「真道」〔單郭朱小型角印〕「物語」〔單郭朱丸印〕。

備考／書陵部本系。但し卷二までの零本。

『伊勢物語知頭』（山岸3256）（G一三六三）

伝源経信著。映入り。新写一冊。袋綴〔四孔白糸〕。

表紙／寸法27・0×19・5種。洪染め紙表紙。左肩に白無地書題簽貼付。題簽寸法16・8×3・0種。題字「伊勢物語知

頭卷一」と墨書。

内題／（扉題）「伊勢物語知頭二」（扉題）「され歌 二」（尾題）「和語知頭 集卷第二」。

内容／本文料紙三極紙。注釈。任意の章段から任意の語句を適出して注釈したもの。但し問答体形式ではなく、見出語と字下げの注という形式。片面11行×行15字内外。奥書無し。

識語／「和語知頭集 一卷欠本也。鎌倉期写本也。以松田氏転写本書写矣。伊勢物語末書也。龍門文庫有完本。昭和十五年十一月中浣写了。近比写本皆囑立木氏者也。岸廼舎」。

蔵書印／「山岸文庫」(複郭朱長方印)「山岸」(單郭墨小型丸印)。

備考／龍門文庫に完本有りとするが、未詳。

『伊勢物語語髓脳』(山岸3254)(G一六一六)

伝在原滋春著。帙入り。新写本一冊。袋綴(四孔白糸)。

表紙／寸法27・2×19・3種。渋染紙表紙。左肩に白地複郭書題簽貼付。題簽寸法18・6×3・8種。題字「伊勢物語髓脳」と墨書。

内題／(扉題)「伊勢物語語髓脳 全」(巻首題)「伊勢物語語髓脳」

内容／本文料紙三桮紙。扉一丁。片面10行×行17字内外。左近権中将在原朝臣滋春序・注釈・奥書

奥書／「天明三年卯二七八三臘月中旬書写了／洛東隱士村井古巖」。

識語／「伊勢物語語髓脳 一卷 神宮文庫本也。以宮田氏写本転写了。詭人者也。／昭和竜集辛未六応鐘上浣／岸廻舎識」
「村井本与内閣文庫本同者也」。神宮文庫蔵書印(林崎文庫)「天明四年甲辰八月吉日奉納／皇太神宮林崎文庫以期不朽／京都勸思堂村井古巖敬義拝」の書写あり。

蔵書印／「山岸文庫」(複郭墨長方印)「山岸」(單郭墨小型丸印)。

備考／神宮文庫蔵村井古巖筆本の模写。

『伊勢物語語髓脳』(山岸3255)(二九二六三)

伝在原滋春著。帙入り。新写本一冊。袋綴(四孔白糸)。

表紙／寸法27・2×19・5種。渋染紙表紙。左肩に白地複郭書題簽貼付。題簽寸法18・5×3・8種。題字「伊勢物語髓脳」と墨書。

内題／「扉題」「伊勢物語髓脳」(巻首題)「伊勢物かたり髓脳」

内容／本文料紙三極紙。片面11行×行19字内外。扉一丁(序「右近権中将在原朝臣よしはる謹書」)・注釈・奥書三種。

本奥書／「右此物語はすいなうこくひつしんしやうはんしむなり。努々短慮者悪人我情の佞人等に伝授せされ、このおきてをそむかは神明のけん罰を蒙るへきものなり。返々おもむき他見あるへからず。此旨急度定置所なり。仍如件。権中将在原朝臣滋晴」

奥書／「右書一字無相違如本写者也」

奥書／「右一冊者為諸願成就令奉納之所也 願主河野源五右衛門尉正利」

奥書／「于時承応式(癸)巳曆(一六五三)極月吉日」

識語／「伊勢物語髓脳一卷 以神宮本之転写本書写畢 昭和六年十月上流詠人書写者也 岸廼舎」「承応二年本与刈谷文库本同者也」神宮文庫蔵書印(「神宮文庫」「宮崎文庫」)の模写あり。

蔵書印／「山岸文庫」(複郭墨長方印)

備考／神宮文庫蔵承応二年奉納本の模本。

『伊勢物語愚見抄』(山岸1155)(九〇一六〜九〇二〇)

一条兼良著。映入り。版本(整版)五冊。袋綴(五孔後綴黄糸)。

表紙／寸法26・7×19・3種。第一冊目、表紙が剥離し芯紙が露出。その左肩に「伊勢物語愚見抄 壹」、右肩に「木下

本」右下に「共五」と墨書。第二冊目以下は紺無地紙表紙。第二、第四冊目は表紙左肩に題簽剝離の痕あり。その痕に「愚見抄 式（四）」と墨書。第五冊目のみ左肩に白地刷題簽（題字「愚見抄」）を貼付するも、下半分が剥がれ、その痕に「五止」と墨書する。

内題／「伊勢物語愚見抄卷一」（他の冊は巻首題無し）。

版式／無辺（字高21・5種）無界（片面11行×行20字内外）・版心に版心題（愚見）と巻序・丁付を記載。

内容／本文料紙楮。（第1冊目）総論・注釈初段から15段（第2冊目）16段から38段（第3冊目）39段から65段（第4冊目）66段から96段

（第5冊目）97段から125段・業平卒伝・本奥書二種（武田本系定家奥書・根源本系定家奥書）・刊記。

奥書／「一本曰、合多本所用捨也。可備證本。／近代以狩使事為端之本出来。末代之人今案也。更不可用之。戸部尚書判」
奥書／「一本曰、抑伊勢物語根源、古人説々不同。或曰在原中将自記云々。先年所書之本為人被借失。仍為備證本重而所
校合也。戸部尚書判」

刊記／「寛文十三（癸）丑（一六七三）歳林鐘吉辰 小川一茶上町 田中理兵衛板行」。

識語／「五冊之内 浦七」「昭和十二年九月中浣頂戴。木下正中博士藏本云々 岸廼舎」。

藏書印／「山岸文庫」（複製朱長方印）

備考／再稿本系。

『伊勢物語聞書』（黒川17）（七四七三九～七四七四〇）

著者不明。帙入り。写本二冊。袋綴。四孔（後綴白糸）。

表紙／寸法26・5×18・0種。縹色無地紙表紙。左肩に白地書題簽貼付。題簽寸法15・2×3・2種。題字「伊勢物語聞

書 上(下)と墨書。但し外題の筆跡は上下別で下冊の方が新しい。

内容／本文料紙楮。内題・序無し。注釈(二つ書き形式の全125項目。上冊は初段から64段まで)。片面9行×行20字内外。奥書無し。

蔵書印／「□□印」(白字朱角印)「黒川真道蔵書」(単郭朱長方印)「物語」(単郭朱丸印)

備考／「一伊勢物語題号之事師説重々在之」として「業平之一性を伊勢と云女注たる故二伊勢か筆作之間別体をものかたりとも云へり。所詮此一儀尤也ト云々」とするなど、二条家流の内容。

『山口記』(黒川20b)(七四七四五)

宗祇著。映入り。版本(整版)三冊合一冊。袋綴(五孔白・紫一色糸)。

表紙／寸法26・6×16・0糎。紺無地厚紙表紙。左肩に題簽剥離の痕あり。その痕に「山口記 上中下」と墨書。右肩に「宗祇法師著」と朱書。

版式／四周单边(内郭16・7×11・6糎。無界(片面10行×行15字内外)。版心に卷序と丁付を記載、「一」(三十終)「一」(三十四終)「一」(三十五)。

内題／「山口記序」「山口記」。

内容／本文料紙楮。(二卷)寛文八年序・題号の由来・注釈初段〜23段前半(二卷)23段後半〜72段(三卷)73段〜125段・跋二種・刊記。

序文／「…余家蔵種玉庵主宗祇法師之所撰山口記式帖。頗義理昭融也。雖然日本間有脱簡。今叨不為之補注。蓋闕如也。

此書未能盛行於世。…今舊洛人某、請余曰、庶幾賜此書、新録梓以貴洛紙之値。既而需余題其端、辭而不允。於是記所聞以欲永伝倭歌家者流耳。時寛文第八年(二六六八)…宮城春意布衣握毫于武城萩花堂」

自跋／「此一冊者延徳之初、防州山口にして此物語之講釈之後、初心之輩所望之間書之。然者形見みやうなる事共なるへし。於余情者筆舌難及、唯任其耳。但又云雖損写落字、可有之。□本まかせに書之候 宗祇在判」。

他跋／「此物語古人之注鈔毎々不為少矣。有兼良愚見抄・宗祇歌注・其弟子宗長抄・肖聞九条禅閣抄・近衛惠雲院抄・大覚寺准后義俊抄・聖護院准后道増抄・環翠軒宗尤惟清抄・紹巴抄・玄旨闕疑抄等、其余不遑枚舉也。唯祇注刪繁揭要而有便于後学矣。∴草秋塾客記之。」

刊記／「寛文八年（二六六）孟秋吉辰 中野半兵衛刊行」。

蔵書印／「阿波国文庫」（單郭朱長方印 徳島藩蜂須賀家）「不忍文庫」（複郭朱長方印 屋代弘賢）「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」。

備考／伊勢物語収載歌206首に関する注釈。流布本と比較して「いかでかはとりの鳴くらむ」「桜花散りかひ曇れ」「わが頼む君がためにと」の三首を欠く。

『山口記』（黒川20 a）（登録番号無し）

宗祇著。帙入り。新写本一冊。紙縫で仮綴

表紙／表紙無し。本の寸法28・0×16・0 糎。

内題／「山口記序」「山口記」。

内容／本文料紙三極紙。寛文八年序・総論・注釈。全16丁。跋・奥書・旧蔵者印等なし。

備考／黒川20 bを序文から11丁まで写したものの。

『惟清抄』（黒川16）（七四七三八）

堯空講釈・清原宣賢聞書・三条西公枝清書。帙入り。写本一冊。袋綴（四孔後綴茶糸）。

表紙／寸法27・0×21・0糎。香色無地紙表紙（補修済み）。左肩に「惟清抄」、右肩に「日」と墨書。

内題／「伊勢物語」

内容／本文料紙斐紙。前遊紙一丁表に「前大納言公業卿筆」と墨書した紙片を貼付。宣賢自序・題号の由来・注釈（片面12

行×行26字内外。全25段の語句や初句を掲げて解説したもの）・奥書（三種）。

序／「…今茲大永二載（二五三三）夏五月吾逍遙老人講此書。以簧鞍後字矣。鉅郷高客戸履日滿。如腐儒亦齒其末席。以聞得

未會聞。厥塵談之妙言淺而義深、理近而旨遠。…予雖不敏。其盈耳者書十八九。暇日屢就老人以糾謬。所謂貧兒暴富也。

吁予已耄矣。豈秉燭夜行乎。所希者末子弟讀之。而可知倭歌之為道。不下周詩也。苟有知則必曰。孔孟業平。易地皆然

也。不亦悅乎。林鐘庚寅。金紫光祿大夫拾遺宣賢自序」

奥書／「右如一見。老懶僻案之臆說。不漏一事。載而抄之。恰如破竹。如写水。却雖有恥。來者儻同志者須潤色之。名曰

惟清抄。不可出窓外而已。大永壬午（二年、一五三三）曆重陽前一日 槐陰厝苾芻堯空誌 六十八歳」

奥書／「右一冊先考奥書之本。不慮紛失今更書之云々。此物語京極黃門奥書。先年所書之本。為人被借失重書写之旨。被

記之畢。蓋於此抄亦謂之乎。天文第六（二五三七）槐月十八 惡槐都護郎 判」

奥書／「逍遙老人講予所令聞書也。為証明申請彼御奥書之処。厥本紛失之間。重按察卿（公枝卿）被加奥書者也。此本又書

写之条染毫訖。天文七年（二五三八）夾鐘廿 環翠軒宗尤判」

蔵書印／「黒川真賴蔵書」（単郭宋長方印）「黒川真道蔵書」（単郭宋長方印）「物語」（単郭宋丸印）。

備考／全冊に朱の句点・鉤点・振り仮名（片仮名表記）・訓点が入る。

『伊勢物語』私抄（黒川19）（七四七四四）

紹巴著。帙入り。写本一冊。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法27・4×19・2 糶。香色無地紙表紙。左肩に白地に空色単郭書題簽を貼付するが一部破損。題簽寸法12・0以上×3・5 糶。題字「伊勢物語私抄」。表紙右肩に「紹巴抄／朝田弓槻本」と墨書。

内題／「伊勢物語私抄」

内容／本文料紙楮。片面12行×行23字内外。序ならびに総論・注釈（全125段から見出語を掲出して改行（字下げで注釈する））・奥書（三種）。

序文／「凡講釈には題号のこゝろを述るならひ也。逍遙院殿に天福年中定家御自筆本を久御所持ありしを若州武田殿へまゐりたる也。又一本は合多本所用捨也可備證本とある御自筆の本、永祿年中に河州飯盛城在之三好長慶朝臣へ若州より相伝にて、愚宅に四五日あつかりをきし也；知頭抄経信卿作云々。東殿家には先知頭抄の儀を讀て聞人の心を見て真実の儀を伝授とあり。知頭を愚見抄にて破給へり。其後肖柏宗祇への聞書当流なり。猶自細の新注、逍遙院殿称名院殿數多見頭し給へり；」

本奥書／「元龜三年（二五七〇）迄六百九十三年成畢。良近式部宇合之子孫也。式家之初此宇合大刀也。北家者忠仁公也。于今榮花也」

本奥書／「永祿八（二五六五）林鐘朔立筆、同晦及黄昏終功了。一授初秋朔午刻 紹巴在判」

奥書／「慶長十（癸丑）（二六〇五）年初秋廿六日終功了。慶純在判」

藏書印／「黒川真道藏書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）

『伊勢物語注 上』（山岸1156）（九〇二二）

著者不明。帙入り。写本一冊（下欠）。袋綴（四孔緑糸）。

表紙／寸法27・6×20・4種。黄色地草花蠟箋紙表紙。中央に題簽剝離の痕あり。左肩に「伊勢物語注 上 下欠」と墨書。

内容／本文料紙三楹紙。総論・注釈（初段から48段まで）。物語本文の語句を掲げて注釈を加える（片面10行×行17字内外）。奥書無し。

識語／「大正十二年大呂七（ハ）古書展覧会にて 岸廼舎」「此書逸題号矣。二冊本ナルベシ 欠下巻 闕疑抄以前之注カ」。
蔵書印／「賀茂住人」（單郭墨正方印）「読杜草堂」（寺田望南、單郭朱正方印）「山岸文庫」（復郭朱長方印）「山岸」。

備考／注記の中には愚見抄や逍遙院説の引用が散見。また「此物語ノ内切紙アルトテ三条西殿御家ニハ無事ト仰アリ元和五三十二」とある。本行と同筆の朱注・傍注・横書きの注記等もあり、書き入れ本を転写したものである。

『闕疑抄』（山岸1146）（八九九〇）〜八九九一）

細川幽齋著。版本（整版）合二冊。（冒頭冊欠。袋綴（四孔後綴白糸）。

表紙／寸法27・8×19・3種。洪染め後補紙表紙。両冊とも表紙中央に「卷二卷三／伊勢物語闕疑抄」「卷四卷五／伊勢物語闕疑抄」と墨書。上冊のみ右下に「共二」と墨書。

内題／「闕疑抄卷第二（四）」「闕疑抄第五」

版式／無辺（字高21・9種 無界（片面12行×行26字内外）。版心注記なし。のどに隠し丁付（闕疑三ノ三三）等散見。

内容／本文料紙楮。（上冊）注釈卷二16〜41段・卷三42〜69段（下冊）卷四70段〜93段・卷五94〜125段・奥書二種（天福本・流布本）・系図・跋二種（自跋・中院通勝跋）・刊記。

奥書／「天福本之奥書曰：（動物）：／天福二年（二三四）正月廿日己未申刻、凌桑門之盲目、連日風雪之中、遂此書写。為授鍾愛之孫女也。同廿二日校早。」

奥書／「世間流布之本奥書端載之。仍略之。其奥書之次云：（兼平卒臣）：／

合多本所用捨也。可備証本。近代以狩使事為端之本出来、末代之人今案也。更不可用之。此物語古人之説不同。或称在中将之自記、或称伊勢之筆作、就彼此有書落事等。上古之人強不可尋其作者、只可翫詞花言葉而已」

自跋／「此物語の抄出来あらましながら花夷のいとまなくて空く過侍るに此比八条宮講読つかうまつるべきよし、かしこき仰ごとをたひくうけ給はり侍るに、もとよりの心さしもしきりに催されつ、三光院内府そのかみしるよししはへりし長岡といふ所にて御講釈有し聞書残りと、まりしをみ出で侍る。其おりの厳命に予が外祖父環翠軒宗尤逍遙院殿へ聴聞せしを惟清抄と名付侍りし。即其趣をもて有余不足をわきまへよとはんへりしかは、愚なる心にかたのやうにひきあはせてしるしつけ侍る。抑此講義惠雲院殿・大覚寺准后義俊・聖護院准后道贈其外宗養・紹巴などにいたりてうけ給はりをよひしを初として、愚見肖聞等の諸抄をあはせ御説の儀に従ひて是を用捨せしむ。論語に多聞闕疑慎言其余則寡尤といへり。よて闕疑をもて此抄出の名とす。其心あまれりやたらすやといふべきもの歟。于時文祿五年（二五九六）仲夏十五日に是をとくるものなり 法印玄旨在判」

中院通勝跋／「此闕疑抄幽齋老新作之所也。旨趣見奥書。予又被草之時侍几下。仍被免許書写。深秘逐底莫出窓外耳。慶長第二（二五九七）孟冬十五日 也足叟素然在判」

刊記／「寛永十一年（甲戌）（二六三四）卯月吉日 新板」。

識語／「闕疑抄之版本有二本矣。慶長版与寛永版也。卷一缺本合綴。昭和四年南呂 岸廻舎」

藏書印／「塙荷」（單郭朱正方印）「山岸文庫」（復郭朱長方印）「山岸」（單郭朱丸印）。朱墨書き入れ多し。

『闕疑抄』（山岸1154）（九〇二二〜九〇一五）

細川幽斎著。帙入り。版本（整版）四冊（最終冊欠）。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法27・6×18・8糎。縹色空押（菱繋地に大輪の花）紙表紙。表紙左肩に白地複郭刷題簽貼付。題簽寸法16・0×13・

7糎。題字「闕疑抄 一（四）」。

内題／「闕疑抄卷第一（四）」

版式／無辺（字高22・6糎）無界（片面12行×行26字内外）。版心注記なし。のどに隠し丁付（闕疑二ノ廿）等散見。

内容／本文料紙楮。（第一冊目）総論・注釈卷一初段〜15段（第二冊目）卷二16〜41段（第三冊目）卷三42〜69段（第四冊目）卷四70段〜

93段。

識語／「欠本也。北越蒲原曾根ノ里 岸廼屋藏」（山岸徳平氏の筆にあらず）。

蔵書印／「山崖十茂能蔵書」（單郭朱正方印）「ともの立きし」（單辺朱丸印）「山崖文庫」（複郭朱長方印）「山崖」（單辺朱丸印）

備考／最終冊を欠くが、山岸1146と同じ寛永十一年版であろう。但し版面は該書の方が鮮明。全冊書き入れ注記・付

箋貼付。

『闕疑抄』（山岸1147）（八九九二〜八九九三）

細川幽斎著。帙入り。版本（整版）合二冊揃。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法27・4×19・7糎。青灰色無地紙表紙。左肩に題簽剝離の痕あり。そこに「闕疑抄 上（下）」と墨書。また上

冊表紙右下に「共二」と墨書。

内題／「闕疑抄卷第一（四）」「闕疑抄第五」。

版式／無辺（字高21・9種）無界（片面12行×行21字内外）版心注記無し。のどに隠し丁付。

内容／本文料紙楮。（上冊）総論・注釈卷一初段〜15段・卷二16〜41段・卷三42〜59段。（下冊）注釈60〜69段・卷四70〜

93段・卷五94〜125段・奥書二種（天福本・流布本）・系図・跋二種（自跋・中院通勝跋）。

刊記／なし。

識語／「闕疑抄二冊合本。九条公爵家旧藏本也。慶長版本流布鮮少也（昭和四年／大呂晦）岸廻舎」

蔵書印／「山岸文庫」（複製朱長方印）「山岸」（単郭墨小型丸印）

備考／無刊記。寛永11年・19年・万治2年いずれの版とも異なる。奥書と跋文は寛永11年本に同じ。

『闕疑抄』（黒川15）（七四七三三〜七四七三七）

細川幽齋著。帙入り。版本（整版）五冊。袋綴（五孔青糸）。

表紙／寸法27・7×18・9種。紺色空押（菱繋ぎ地に大輪の花）紙表紙。左肩に白地複郭刷り題簽貼付。題簽寸法15・9×3・

8種。題字「闕疑抄 一（〜五）」（但し第1冊目は書題簽、第4冊目は題簽剥離）。第一冊目表紙右肩に「細川玄旨著」と朱書。

内題／「闕疑抄卷第一（〜四）」「闕疑抄第五」。

版式／三周単辺（版心部分の縦線を欠く。内郭22・7×17・0種）無界（片面12行×行22字内外）。版心に版心題（闕疑）と卷序・丁付を記載。

内容／本文料紙楮。（第一冊目）総論・注釈卷一初段〜15段（第二冊目）16〜41段（第三冊目）42〜69段（第四冊目）70〜93段（第五

冊目）94〜125段・奥書二種（天福本・流布本）・跋文二種（自跋・中院通勝跋）・刊記

刊記／「寛永十九（壬／午）二六四二歳孟春吉辰新板 二条通観音町風月宗智刊行」。

蔵書印／「洞津天然寺中寶樹院蔵書記」（単郭墨大型長方印）「渡部蔵書」（単郭朱正方印）「渡部平」（単郭朱長方印）「榛」（単郭墨丸印）「黒川

真頼蔵書〔單郭朱長方印〕「黒川真道蔵書」〔單郭朱長方印〕「物語」〔單郭墨小型丸印〕。

備考／奥書と跋文は寛永11年本に同じ。

『闕疑抄』（常磐松913・3）（七四一二四～七四一二五）

細川幽齋著。版本（整版）合二冊。袋綴（五孔白糸）。

表紙／寸法27・8×18・6種。紺無地厚紙表紙。表紙左肩に白地複郭刷り題簽貼付。題簽寸法15・7×3・8種。題字「闕疑抄 一之二」「闕疑抄 三之五」。表紙右下端に旧蔵者の書票貼付〔函19／冊／310〕。

内題／「内題」「闕疑抄卷第一（～四）」「闕疑抄第五」。

版式／三周单边（内郭22・5×17・0種）無界（片面12行×行22字内外）。版心に版心題（闕疑）と卷序（二（～五））・丁付を記載。

内容／本文料紙緒。（上冊）総論・注釈卷一初段～15段・卷二16～41段（下冊）卷三42～69段・卷四70～93段・卷五94～125

段・奥書二種（天福本・流布本）・跋文二種（自跋・中院通勝跋）・刊記

刊記／「寛永十九（壬午）（二六四）歳孟春吉辰 新板 二条通観音町 風月宗智刊行」

蔵書印／「本山文庫」〔單郭朱正方印〕

備考／奥書二種と跋文二種は前掲に同じ。識語無し。寛永19年版（黒川15）の異版。

『闕疑抄』（常磐松）（三六三〇六～三六三〇七）

細川幽齋著。版本（整版）二冊。袋綴（五孔白糸）。

表紙／寸法27・2×18・8種。青灰色空押（菱繋ぎ地に大輪の花）紙表紙。左肩に白地複郭刷り題簽貼付。題簽寸法15・9×

3・7種。題字「闕疑抄一（一三）。兩冊とも表紙右肩に旧蔵者の書票（317／石山文庫）貼付。

内題／「闕疑抄卷第一（一四）」「闕疑抄第五」

版式／三周単辺（内郭22・3×16・9種 無界（片面12行×行22字内外）。版心に版心題（闕疑）と卷序・丁付を記載。

内容／本文料紙楮。（上冊）総論・注釈卷一初段～15段・卷二16～41段（下冊）注釈卷三42～69段・卷四70～93段・卷五94

～125段・奥書二種（天福本・流布本）・跋文二種（自跋・中院通勝跋）・刊記

刊記／「万治二年（己ノ亥（二六五九）八月吉日 柳馬場通二条下ル町 吉野屋権兵衛板行 新板」。

蔵書印／「石山記念文庫」（単郭墨長方印）「徹郎」（単辺朱丸印）。

備考／奥書二種と跋文二種は前掲に同じ。識語無し。万治版は寛永19年版の覆彫か。

『伊勢物語抄』（黒川14）（七四七三二）

著者不明。帙入り。写本一冊。袋綴（五孔後綴白糸）。

表紙／寸法23・0×16・0種。灰色無地厚紙表紙。左肩に「伊勢物語抄」、右肩に「慶長五年写本」と朱書。

内題／無し。

内容／本文料紙楮。前遊紙二丁表に「本多佐渡守正信筆」と墨書した押紙（15・7×4・1種）貼付。片面8行×行20字内外。

題号の由来・注釈（全125段について、ひとつ書きの注）・奥書（二種）。

奥書／「業平 元慶四年五月廿八日五拾六にて死シ給ふ也。伊勢物語種々説々。根源古事数多候。右一品如先本之書置、

以相違之所後見之方、御なをし可有者也。」

奥書／「慶長五年（二六〇〇）式月廿四日 正信」

蔵書印／「黒川真頼蔵書」（単郭朱長方印）「黒川真道蔵書」（単郭朱長方印）「物語」

備考／題号の由来で「此物語伊勢物語と云事、七条の後の官女に伊勢と云女有りけり。業平のこれつまなりければ、七条の後よりなりひらの詠草や有らんと御尋ありければ、業平一代の事たひかいおほえければ、此物語をつくりて后へ奉けり。然者伊勢が書たる物かたりなれば、いせ物語と云也。古注には様々の儀あれとも当流には用へからず」とある。なお後代の書き入れか、本行とは別筆で各章段冒頭の見出し語に章段の段序が書き入れられてあるが、「一」から「百二十四」までとする。

『伊勢物語集注』（黒川18）（七四七四一～七四七四三）

一華堂切臨著。映入り。版本（整版）十二卷合三冊。袋綴（五孔後綴白糸）。

表紙／寸法27・8×18・6糎。縹色空押（菱繋ぎ地に太輪の華）紙表紙。左肩に白地複郭刷り題簽貼付。題簽寸法17・0×3・

7糎。題字「伊勢物語集註」。また三冊とも題簽に「（従一／至四）」「（従五／至八）」「（従九／至十一止）」と墨書。第一冊目表紙右肩に

「僧切臨編 承応版」と朱書。

内題／序題「伊勢物語集注序」（巻首題）「伊勢物語集注卷二（十二）」（卷十二の巻首題）「伊勢物語集注」。

版式／無辺（字高20・4糎 無界）片面11行×行21字内外。版心に版心題「集注」・巻序・巻毎の丁付を記載。

内容／本文料紙楮。物語全文を適宜小分けにして提出し、各々改行二字下げで注を施したもの。（上冊）巻一自序と初段

／6段・巻二7／17段・巻三18／28段・巻四29／45段。（中冊）巻五46／60段・巻六61／68段・巻七69／77段・巻八78／

86段。（下冊）巻九87／100段・巻十101／114段・巻十一117／125段・天福本奥書云（勸物・定家奥書）・伊勢物語系図・巻十二根

源本奥書とその注・業平卒伝・武田本奥書とその注・古注新注・大意・雑説・慶安元年自跋・刊記。

自序／「いせものがたりの新注は兼良公の愚見抄を初として先達の末書おほき中に近來世にもてあそぶは闕疑抄なり。これをみるに書写のあやまりおほく、又相伝の正義をふるしもらせり。さるによりそのかみ西三條内府実澄公より下僧が老師一華堂乘阿へつたはりし奥義をむねとし兼て諸抄を見そなはしてしるし集め侍るといふことしかり。時に慶安戊子（元年、一六四八）季秋雒陽黃台山切臨叙す」。

自跋／「故一花堂乘阿翁はきびはなるほどに文に心ざしありとて父母の積門に入しは八歳の時とかや。それよりまなびの窓に功をつみて或は禪に参し、或は神道の宗源をつたへ、儒宗の理学をつとめなどし、又頓阿が天台の学をきはめしも歌道にうつり招月の教殊の法なりしも和歌を専とせるたぐひ、いにしへ今に限りなきを思ひ、六くさの道におもむきて歌書は仏儒の教理をやまと詞になしたるもの也といふことをさとり、都鄙にして敷島の道をもて人倫をただし、あきらかにせること年をへしかば、天聴に達し、後陽成院のみかどの勅をうけたまはり、龍顔を拝して和歌の道のふるき事をいらへ奉れり。さるは類齡八十九にして無為の楽邦に往詣せり。予その末弟にて講筵にまじはること度かさなりし、その旨をしるし侍ことしかり。慶安元年（一六四八）九月吉辰 洛陽黃台山住侶切臨叟誌之」。

刊記／「承応二癸巳年（一六五三）三月吉日 室町通鯉山町 梓行（小嶋彌左衛門／小嶋市郎衛門）」。
識語／無し

蔵書印／「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）

『伊勢物語集注』（山岸 1153）（九〇〇二〜九〇二二）

一華堂切臨著。帙入り。版本（整版）十冊（十一・十二欠）。袋綴（五孔後綴黄糸）。

表紙／寸法 26・8×18・0 糲。縹色空押（菱繋ぎ地に太輪の華）紙表紙。左肩に白地に複郭刷題簽貼付。題簽寸法 16・8×3・

6 種。題字「伊勢物語集注一（一七）」。

内題／「伊勢物語集注序」「伊勢物語集注卷二（一七）」。

版式／無辺（字高20・3種）無界（片面11行×行21字内外）。版心に版心題「集注」・卷序・卷毎の丁付を記載。

内容／本文料紙楮。巻一〜十まで題簽を除き黒川18に同じ。

識語／「共十冊／巻〔十一／十二欠〕」。

蔵書印／「山岸文庫」（複郭朱長方印）

『伊勢物語 上』（山岸1160）（九〇二五）

著者不明。帙入り。写本一冊（下欠）。袋綴（四孔後綴白糸）。

表紙／寸法23・8×18・0 種。おもて表紙は茶色の墨流し模様紙表紙（裏表紙は枝折ちらし模様）。おもて表紙左肩に「伊勢物語

上 下欠」、右下に「共一」と墨書。

内容／本文料紙楮。片面10行×行22字内外。毎葉袋の折り目に丁付（一〜八十五）を記入。内題はなく、冒頭に「明暦元年（二

六五五）七月二十七日／初段斗御文字読」とあり、以下題号のことなど総論（三三）・注釈とつづく。この注釈は初段から

59段まで、章段内の本文を任意に引用し、当該本文について語釈等を記したものを。

識語／「此書名称不明之欠本也」。

蔵書印／「東堂」（單郭朱正方印）「宣」（單郭朱正方印）「胤」（單郭朱正方印）「山岸文庫」（複郭朱長方印）。

備考／上冊のみの注釈書（二系家流）。闕疑抄からの引用が散見。

『伊勢物語拾穂抄』（山岸1149）（八九九五）

北村季吟著。帙入り。版本（整版）合一冊。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法26・0×18・6糎。縹色無地後補紙表紙。左肩に題簽剝離の痕あり。そこに「勢語抄」と墨書。

内題／「伊勢物語拾穂抄一」。

版式／四周单边（内郭22・7×17・5糎）・無界（片面12行×行18字内外）版心に版心題「伊拾穂」と巻序・丁付を記載。

内容／本文料紙楮。物語全文を揭示し、頭注・傍注形式で注を施したもの。愚見抄・肖聞抄・推清抄・闕疑抄等の先行注の他、師説を引く。巻一序・初段／16段。巻二17／48段。巻三49／81段。巻四82／125段・寛文三年自跋。巻五勤物・定家天福本奥書・定家自筆本奥書（武田本系）・幽齋奥書・根源本系定家奥書・業平卒伝・刊記。

跋／「此伊勢物語拾穂抄季吟所撰也。蓋闕疑抄之外 或師説或異説或又拾其遺者 集之名拾穂抄云 属者装背此一書開以余為介使獻上諸 太上天法皇辱有觀覽 豈非所榮哉 仍以書其後矣／寛文癸卯（三年、一六六三）孟夏吉辰 同令跋」

刊記／「延宝八（庚／申）（二六八〇）年仲秋吉辰／長尾平兵衛開刊」。

識語／「伊勢物語拾穂抄四冊令合一冊者也。大正十一年大呂十三（祖母中陰之日）岸廼舍」

藏書印／「中図書印」（單郭朱正方印）「續口亭」（單郭朱正方印）「山岸文庫」（複郭朱長方印）。

『伊勢物語拾穂抄』（黒川23）（七四七五一～七四七五二）

北村季吟著。帙入り。版本（整版）二冊。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法25・7×18・9糎。紺色空押紙表紙。左肩に単郭白無地刷題簽貼付。題簽寸法18・8×3・7糎。題字「伊勢物語拾穂抄 上（下）」。両冊とも表紙右肩に「真道本」と朱書。

内題／「伊勢物語拾穂抄一」。

版式／四周单边（内郭22・1×17・3糎 無界（片面12行×行18字内外）。版心に版心題「伊拾穂」と巻序・丁付を記載。

内容／本文料紙楮。（上冊）巻一〜三、（下冊）巻四五。巻一〜五の構成は山岸1149に同じ。

刊記／「延宝八（庚ノ申）（二六八〇）年仲秋吉辰 藤野九郎兵衛梓」

識語／「真道云予ノ書き入レタルハ父真頼ノ説ト又予ノ考トナリ。其ノ他ハ出典ヲ記シオキタリ」「大正三年十二月一読

了 但少々諸説及愚考書入 黒川真道」「大正五年十月一読聊加愚見了 黒川真道」「大正七年五月十五日更に再考を加

へり 汲古学人」

蔵書印／「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）

備考／全冊に真道の書き入れ注・付箋注あり。

『伊勢物語拾穂抄』（黒川24）（七四七五三〜七四七五四）

北村季吟著。映入り。版本（整版）二冊。黒川23（延宝8年藤野版）と同版か。但し版面は該書の方が瘦せている。

異同箇所／袋綴（五孔後綴白糸）。表紙寸法26・9×19・0糎。青灰色紙表紙。左肩に無地書題簽貼付。題簽寸法17・9×3・

3糎。題字「伊勢物語拾穂抄上（下）」と墨書。また上下冊とも、表紙右肩に「真道本」と朱書。前後見返しともに白地

に金箔散らし。内郭22・3×17・4糎。

蔵書印／「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真頼」（單郭朱丸印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）他。

備考／延宝八年藤野版。全冊に真道による朱・緑・墨筆を用いた書入れ多数。

『伊勢物語拾穂抄』（黒川25）（七四七五五）

北村季吟著。帙入り。版本（藍版）合一冊。山岸1149（延宝8年長尾版）と同版か。

異同箇所／袋綴（五孔後綴白糸）。表紙寸法27・3×19・1糎。卵色地に枝折と松ぼっくりを描いた後補紙表紙。表紙左肩に

「伊勢物語拾穂抄 全」と墨書。内郭27・2×17・2糎。識語なし。

蔵書印／「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）。

『後水尾天皇勢語御講抄』（黒川22）（七四七四七〜七四七五〇）

後水尾天皇著。帙入り。写本四冊（冒頭冊欠）。袋綴（四孔紺糸）。

表紙／寸法22・7×16・8糎。天部に緑の龍紋、他は白地に雲母刷紙表紙。中央に黄色無地書題簽貼付。題簽寸法16・

2×3・0糎。題字、第一冊目「後水尾天皇勢語御講抄 比」第二冊目（題簽剥落）第三冊目「後水尾天皇勢語御講抄 雅」

第四冊目「後水尾天皇勢語御講抄 頌止」。また第一冊目から順に「三（つ）六」と題簽もしくは題簽剥離痕に巻序を朱書

最終冊には「御欠」と墨書する。

内容／本文料紙緒。内題無し。片面12行×行30字内外。各冊冒頭に「第五度七日」「第七度十一日」「第九度十九日」「第一
十一度廿二日」と講釈日を記入し、以下見出語を掲げて注釈を記す。巻末に奥書四種。

奥書／「以飛鳥井一位之秘本写之／元禄十四年辛巳（一七〇〇）卯月十六日 随宜堂」

奥書／「右此御講抄ハ自から都に在し時、やんことなき縁にしありて、かりうけ拙き筆して写しまふけたりしか、今己に
齢八十歳に成けるにみの、国帆引のさと内田氏なる女性、わりなくのそましく思はれけるにより、今はとて彼方へ送り
あたへ侍りし序に

此文をひらきて見ます折々におもひも出よ水くきのあと

享保十二末（二七七）の秋 文月 伊勢国八十瀬 随流／内田氏お里代雅女

奥書／「予嚮從仕に中山重相家之日偶見此御抄於芝山宰相（宣慶／卿）之机上也。卿之祖父西槐（宣慶／卿）者後水尾帝院中之執

権也。故伝之於家矣予懇請此御抄、既有年於此不図得子之濃之恨引内田氏也。借受者読之全如芝山家本、故使中村可寧

写之留貯其藏云／延享元（二七四）八 二 多田三郎 源義窓判

奥書／「右御講抄不可出窓外者也／明和七寅年（二七七）冬 景儔

藏書印／「閑雅文庫」〔複製朱長方印〕「鳩」〔單郭朱丸印〕「黒川真頼藏書」〔單郭朱長方印〕「黒川真頼」〔單郭朱丸印〕「黒川真道藏書」〔單郭朱

長方印〕「物語」〔單郭朱丸印〕

備考／第一二冊目と第三四冊目の書写は別筆。表紙の芯紙に該書の写し損じとみられる反故紙を使用。

『伊勢物語奥旨秘訣』（黒川21）（七四七四六）

著者不明。帙入り（帙題簽「伊勢物語奥旨秘訣」）。写本一冊。袋綴（四孔後綴緑糸）。

表紙／寸法27・0×19・7糎。白地に緑の彩画（桐）入り紙表紙。左肩に「伊勢物語の傳」と墨書、右肩に「二条家の傳」と朱書。全冊補修済み。

内題／「伊勢物語奥旨秘訣」。

内容／本文料紙楮。片面10行×行24字内外。題号口訣・極秘裏説條目口訣・極秘七個大事。奥書二種。

奥書／「右伊勢物語秘訣の條々七個の大事は二条家之正説。誠秘中之秘也。依年来之懇望嫡傳之。趣不相殘授之訖。如楚

盟容易不可漏脱者也／慶安元年（二六四）八月十六日長頭丸（松永貞徳）在判

奥書／「右伊勢物語之口訣之品々、七個大事者二条家之正説而□先洌明心居士傳受之趣也。於此道佐為年來深切、傳來相承之條。故不相殘授之訖。如楚盟函底非堪其著者猶不可有漏脱者也／寛文八（戊／申）歲（二六六八）二月廿二日 廣沢隠士 長孝在判」

藏書印／「大宅□□」（單郭朱正方印）「精関連長□」（白文。朱長方印）「黒川真頼藏書」（單郭朱長方印）「黒川真道藏書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）

『伊勢物語新抄』（常磐松）（八八〇二四）八八〇三四）

加藤警斎著。帙入り（鉄題簽「伊勢物語新抄」）。版本（整版）十一冊。袋綴（五孔白糸）。

表紙／寸法27・2×19・4 糶。薄縹色空押（菱繋ぎ地）紙表紙。左肩に白地刷題簽貼付。題簽寸法19・1×4・0 糶。題字「伊勢物語抄 序（一之上・二之下・二之上・三之上・三之下・四之上・四之下・五之上・五之下）」。

内題／「伊勢物語新抄」。

版式／四周单边（内郭20・8×16・1 糶）無界（片面11行×行23字内外）・白口・版心に版心題「伊」と卷序・丁付を記載。

内容／本文料紙楮。物語全文を掲示して注を施す。（第一冊目）自序・総論（二冊目）1～6段（三冊目）7～15段（四冊目）16～

22段（五冊目）23～41段（六冊目）42～60段（七冊目）61～69段（八冊目）70～82段（九冊目）83～93段（十冊目）94～107段（十一冊目）

108～125段・定家天福二年奥書・刊記。

刊記／「寛文八稔（戊／申）（二六六八）卯月吉辰開刊」。

藏書印／「長」（單郭墨角印）「駿河国／戊／明治堂扱」（單郭青色角スタンプ）。

『勢語臆断』（黒川30）（七四七八〇）七四七八二）

契沖著。帙入り。写本三冊（第三冊目欠）。袋綴（四孔縁・紫二色糸）。

表紙／寸法27・7×19・1糎。縹色空押（亀甲地に大輪の花）紙表紙。左肩に白地書題簽貼付。題簽寸法21・2×3・8糎。題

字「伊勢物語臆断 契沖大人著 上」「伊 勢物語臆断 中（下）」。

内題／「勢語臆断」

内容／本文料紙格。片面12行×行20字内外。物語全文を任意に区切り、各々改行二字下げで注釈を施したもの。（上冊）総

論3丁・注釈初段〜21段（中冊）22〜48段（下冊）82〜125段・流布本定家奥書・天福2年本定家奥書・業平卒伝・跋（自跋・再

記の二種）

自跋／「右此伊勢臆断三卷、先年草之、然其稿本其汗穢自猶不得読。仍去春託老兄写彼稿本。然猶無閑暇不能校合。近日

得暇故一校以加改正畢／元禄五年（一六九三）季秋初三密乘桑門釈契沖」

自跋（再記）／「再記仮名依日本記万葉集味名抄等。後覽之人莫恠之矣」

蔵書印／「表門函書」（單郭朱長田印）「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真頼」（單郭朱丸印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」

（單郭朱丸印）

備考／朱墨の書き入れ注記あり。

『勢語臆断』（山岸1144）（八九八一）八九八四）

契沖著。帙入り。写本四冊揃。袋綴（四孔、冊毎に白乃至紫糸使用）。

表紙／寸法23・5×16・4糎。布目地に渋引紙表紙。左肩に白地複郭書題簽貼付。題簽寸法15・0×3・3糎。題字「勢

語臆斷一（一四）。第一冊目表紙右下に「共四」の朱書。

内題／「勢語臆斷」。

内容／本文料紙楮。片面14行×行20字内外。（第1冊目）総論3丁・注釈初段〜21段（第2冊目）22〜48段（第3冊目）49〜81段（第4冊目）

冊目 82〜125段・流布本定家奥書・天福2年本定家奥書・業平卒伝・自跋（二種）・契沖考勘（嘉承2年叙爵について）・識語

自跋／「右此勢語臆斷四卷、先年草之、然其稿本甚汗穢自猶不得読。仍去春託老兄写彼稿本。然猶無閑暇不能校合。近日

得暇故一校以加改正畢／元禄五年（二六九二）季秋初三密乘桑門釈契沖」

自跋（再記）「再記仮名依日本紀万葉集和名鈔等、後覽之人莫恠之矣」

識語／「十三童源白雀借覽之暇写之畢」。

蔵書印／「中尾文庫」（單郭朱長方印）「山岸文庫」（複郭朱長方印）「山岸」（複郭朱小型丸印）

『勢語臆斷』（黒川29）（七四七七六〜七四七七九）

契沖著。帙入り。版本（整版）四冊揃。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法26・7×18・5糎。小豆色空押（菱繋ぎ）紙表紙。左肩に白地刷題簽貼付。題簽寸法19・1×3・7糎。題字

「勢語臆斷 上之上（上之下・下之上・下之下）」。

版式／無辺（字高21・0糎 無界 片面12行×行18字内外）。版心に「○」、のどに隠し丁付あり。

内容／本文料紙楮。内題無し。（第1冊目）総論・注釈初段〜21段（第2冊目）22〜48段（第3冊目）49〜81段（第4冊目）82〜125段・流

布本定家奥書・天福2年本定家奥書・業平卒伝・自跋（二種）・刊記

自跋／「右此勢語臆斷四卷、先年草之、然其稿本甚汗穢自猶不得読。仍去春託老兄写彼稿本。然猶無閑暇不能校合。近日

得暇故一校以加改正畢／元祿五年（二六九二）季秋初三密乘桑門积契沖

自跋（再記）／「再記仮名依日本紀万葉集和名鈔等、後覽之人莫恠之矣」

刊記／「此書以契沖自筆之上木者也／享和二年（二八〇三）春 正繩」

蔵書印／「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）

『勢語臆断』（常磐松）（三六三〇一～三六三〇五）

契沖著。版本（整版）五冊揃。袋綴（四孔糸糸）。

表紙／寸法26・1×18・2糎。利休色無地厚紙表紙。左肩に白地単郭刷題簽貼付。題簽寸法17・9×3・8糎。題字「勢

語臆断 一（五）。

内題／（序題）「勢語臆断序」（卷首題）「勢語臆断卷之一（五）」（尾題）「勢語臆断卷之一（四）」「勢語臆断卷之二（三・五終）」。

版式／四周单边（内郭19・4×14・9糎） 巨郭外上部に枠囲いを施して、注記を加える。無界（片面12行×行23字内外）。版心に版心題

「勢語臆断」と卷序（序・卷一～五）・丁付を記載。

内容／本文料紙楮。（第1冊目）序二種（岡田麿高蹊序・田山敬儀序）・注釈初段～17段（第2冊目） 18～42段（第3冊目） 43～68段（第4冊目）

69～93段（第5冊目） 94～125段・流布本定家奥書・天福2年本定家奥書・業平卒伝・刊記

刊記／「享和三年癸亥（二八〇三）初年春発行／皇都書林「吉田四郎右衛門／吉田屋新兵衛」。

蔵書印／「富蔵」（單郭朱長方印）。

『勢語臆断』（山岸1145）（八九八五～八九八九）

契沖著。映入り。版本（整版）五冊揃。常磐松本（享和三年版）の異版か。

異同箇所／五孔後綴白糸。表紙寸法27・4×19・3種。青灰色空押（布目地）紙表紙。左肩に白地単郭刷題簽貼付。題簽寸法17・8×3・8種。表紙右肩に旧藏者の書票（第四号五冊）貼付。第一冊目表紙右下に「共五」と墨書。刊記のあとに蔵書目録一丁を入れる。

刊記／「享和三年癸亥（二八〇三）初春発行／皇都書林（吉田四郎右衛門／吉田屋新兵衛）」。

蔵書目録／「皇都書林 三条通富小路西二入町 吉田新兵衛」

識語／「昭和九年大呂晦 岸廼舎」

蔵書印「寛口」（白文。朱正方印）「山岸文庫」（複郭朱長方印）

備考／卷末の業平卒伝に欄外注の印刷なし。

『伊勢物語童子問』（黒川26）（七四七六三〜七四七七五）

荷田春満著。映入り。写本一三冊。袋綴（四孔黄糸。享保二七三六）頃か。

表紙／寸法27・3×18・1種。青灰色空押（布目地）紙表紙。全冊題簽なし。各冊表紙左肩に「伊勢物語童子問 一（十三終）」と墨書。第一冊目表紙右肩に「荷田春満著」と朱書。

内題／「伊勢物語童子問」。

版式／無辺（字高20・5種 無界（片面9行×行25字内外）。

内容／本文料紙格。「童子問」と「答」と問答形式の注釈・奥書。注釈は題号の由来からはじまる。物語本文の注は、本文を抄出して問答体で注を展開する。

奥書／「荷田宿祢春満答」。

蔵書印／「黒川真頼蔵書」〔單郭朱長方印〕「黒川真頼」〔單郭朱丸印〕「黒川真道蔵書」〔單郭朱長方印〕「物語」〔單郭朱丸印〕

『伊勢物語古意』（黒川27）（七四七五六～七四七六一）

賀茂真淵著。帙入り。版本（整版）六冊（よしやあしや）は別帙に収める。袋綴（五孔黄糸）。宝曆（二七五三）頃か。

表紙／寸法25・7×18・2種。青灰色空押（布目地）紙表紙。中央に白地刷題簽貼付。題簽寸法17・9×3・4種。題字

「伊勢物語古意一（～六）」。第一冊目表紙右上に「加茂翁著」と朱書、右下に「共六冊／外善悪一冊添」と墨書。

内題／「伊勢物語古意総論 賀茂真淵記」「伊勢物語古意卷一（～卷六）」

版式／無辺（字高²²・5種）無界（片面13行×行31字内外）。頭注入り。版心に巻序と丁付を記載。

内容／本文料紙楮。物語全文を任意に区切り、改行二字下げで当該本文の注を施す他、頭注も加える。（第1冊目）序・総

論・注釈初段～15段（第2冊目）16～32段（第3冊目）33～58段（第4冊目）59～76段（第5冊目）77～95段（第6冊目）96～125段。奥書・

刊記・識語無し。

蔵書印／「萩家毛登」〔單郭朱正方印〕「黒川真頼蔵書」〔單郭朱長方印〕「黒川真頼」〔單郭朱丸印〕「黒川真道蔵書」〔單郭朱長方印〕「物語」

〔單郭朱丸印〕

『よしやあしや』（黒川28）（七四七六一）

上田秋成著。帙入り。版本（整版）一冊。袋綴（五孔黄糸）。

表紙／寸法25・8×18・2種。青灰色空押（布目地）紙表紙。中央に白地刷題簽貼付。題簽寸法18・0×3・2種。題字

「豫之也安志夜」。表紙右肩に「上田秋成著」と墨書。

版式／無辺（字高21・5種）無界（片面13行×行34字内外）。版心に版心題「ヨ」と丁付（二～三）記載。

内容／本文料紙格。一つ書きで見出語を掲げ、次にそれを注釈する。序文ならびに総論・注釈・刊記。

序文／「五十瀬の海のかき心をとときあかせしふみ、こたび書清むるなべに、いでやふりにし世の事は波のみちきえて跡なきが中にも、猶一つふたつおぼえよりし事もをかゝるたよりにもこそと、くらぶの山路たどるくかいつらねて、ある人に見せ侍れば、こや難波人のことぐさのよしやあしやはさだすへくもあらねど、いにしへより伽羅のやまどのふみとく人もおのれいぶかしきから筆ははじむとこそおほゆれ。野中の清水もとのこゝろいかならむとも射めたて、は遠からじなど、打あざめるやうなるを、ましてはた世の人わらへ草なるべくなむ。…」

刊記／「寛政五年癸丑（二七九三）秋九月／書肆（東都西村源一／浪花松村九兵衛／同洪川與左衛門）」。

蔵書印／「萩家毛登」（單郭朱正方印）「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真頼」（單郭朱丸印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」

（單郭朱丸印）

備考／装丁・版下筆跡・蔵書印等からみて、黒川27と揃い。

『伊勢物語古意』（山岸1166）（九〇三四～九〇四〇）

賀茂真淵著。映入り。版本（整版）七冊揃（古意六冊・よしやあしや一冊）。袋綴（五孔後綴紫糸（二～六冊目）白糸（七冊目））。黒川27・28の異版。以下異同箇所のみ記す。

表紙／寸法27・1×18・5種。青灰色空押（布目地）紙表紙。中央に白地刷り題簽貼付。題簽寸法18・3×3・5種。題字「伊勢物語古意 一（一六）「豫之也安志夜」。第七冊目表紙右肩に「第七一八号」と朱書。

内容／内容と刊記は黒川27・28に同じ。但し最終冊巻末に「文海堂藏書豫頭目録 大阪心齋橋南二丁目 敦賀屋九兵衛」として同書肆の売り立て目録(二丁)を綴じ込む。

識語／「六巻終」(朱)「伊勢物語古意六冊附予之也安之夜一冊」(賀茂翁著／上田翁校)／大正癸亥十二大呂三 岸廻舎」

藏書印／「山岸文庫」(復郭朱長方印)。また第七冊目のみ「長野県尋常師範学校」(単郭朱大型正方印)を捺し、その上から「消印」

(単郭墨長方印)を捺す。

【伊勢物語考・日本紀の御局の考】(黒川32)(七四七八六)

賀茂真淵・藤井高尚各著。帙入り。写本合一冊。袋綴(四孔白糸)。

表紙／寸法23・7×16・7糎。渋染(格子柄)雲母引紙表紙。左肩に白地書題簽貼付。題簽寸法15・6×3・4糎。題字

「伊勢物語考〔賀茂翁考〕」と墨書。表紙右肩には「藤井高尚考／日本紀乃御局能考〔伴直方自筆本〕」と墨書。

内容／本文料紙三極紙。

【伊勢物語考】

片面7行×行17字内外。内題無し。内容は序(5丁)と注釈「一物語てふ事 一いせ物かたりと名付たる事 一伊勢の御のかきたるにあらざる説の事 一業平の由記自記ならぬ事 一時代のたかへる事 一作れる時世の事 一むかし男てふ事

賀茂真淵上」。全21丁。

【日本紀の御局の考】

片面9行×行20字内外。内題「日本紀の御局の考」。考証。奥書「文化八年(二八二)十一月十五日長門守藤原宿祢高尚」。

全11丁。

備考／全冊に朱筆書き入れ多数、なかに「直方按、水鏡卷下云紫式部か源氏などかきて侍るさまはたゞ人のしわざとやは見ゆる。されどもその時には日本紀の御つほねなとなつてわらひけりとこそはやがて式部か日記にはかきて侍るめれ」(朱)とある。

蔵書印／「伴氏家印」(單郭朱長方印)「樺通屋」(單郭朱丸印)「赤紀書屋」(白文朱正方印)「倉持氏印」(單郭緑長方印)「黒川真道蔵書」(單郭朱長方印)「物語」(單郭朱丸印)。

『伊勢物語傍注』(山岸1165)(九〇三二〜九〇三三)

賀茂季鷹著。帙入り。版本(整版)二冊。袋綴(四孔茶糸)。

表紙／寸法26・0×18・2糎。薄縹色空押(布目地)紙表紙。左肩に黄色刷題簽貼付。題簽寸法17・9×3・1糎。題字「伊勢物語傍注 上(下)」。

内題／(封面題)「賀茂季鷹縣主校正／伊勢物語傍注／青藜閣」(卷首題)「伊勢物語傍注」。

版式／四周单边(内郭20・0×15・5糎)無界(片面10行×行23字内外)。版心に版心題(伊勢物語傍注)卷序(上)下)丁付を記載。

内容／本文料紙楮。注釈は物語全文を揭示し、傍注や欄外注を施したもの。(上冊)安永五年十一月自序。岡田御風序。注釈初段〜48段(下冊)49〜125段・書肆広告・刊記。

自序／「一、世に伊勢物語の素本とておこなはるゝは、ゑなと書ましへて其さまもつたなく児女のもてあそひにちかし。よりておとな〜しき人のみんためにもとて、今あらたに梓にちりはめぬ……」

刊記／「安永五年丙申(二七七六)仲冬／東都書肆 須原屋伊八梓」。

識語／「伊勢物語傍注 高田與清自注奥書／明治丁酉初種夜／田村桑畝囁□尾完」。

蔵書印／「灑汀文庫」〔單郭朱姿型印〕「山岸文庫」〔複郭朱長方印〕「山岸」〔單郭墨小型丸印〕他。
備考／「与日」〔高田与清か〕とある朱墨書き入れ多数。

『勢語図抄』（黒川31）（七四七八三～七四七八五）

藤原彦麻呂著。帙入り。写本三冊（卷二・四欠）。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法26・4×18・3種。青灰色無地紙紙表紙。左肩に白色空押（布目地）単郭書題簽貼付。題簽寸法17・8×3・6種。題字「勢語図抄 卷之一（卷之三・図絵）」と墨書。第一冊目右肩に「彦磨翁自筆原本」右下に「欠本／共三冊」と墨書。

内題／「勢語図抄卷之一 藤原彦麻呂著」「勢語図抄卷之一終」「勢語図抄卷之三 藤原彦麻呂著」「勢語図抄卷之三終」
内容／本文料紙は事務用箋（複郭・墨界10行・版心に上黒魚尾の印刷用箋）。〔第1冊目〕総論・注釈卷一初段～15段〔第2冊目〕

卷三43～65段〔第3冊目〕自序・図絵・奥書・業平伝

奥書／「勢語図抄 全部五卷の段毎にそふへき絵図をこゝにつとへて草稿とせり 享和の始のとし（二八〇）のやよひ 智
明改 彦麻呂／同二年名を改む」。

蔵書印／「彦磨」〔單郭朱正方印〕「蘆之仮庵」〔彦磨号、單郭朱正方印〕「黒川真頼蔵書」〔單郭朱長方印〕「黒川真道蔵書」〔單郭朱長方印〕「物語」

（單郭朱丸印）

『伊勢物語七ヶ口訣裏説ほか』（黒川37）（七四七九九）

帙入り。写本合一冊。袋綴（四孔後綴白糸）。

表紙／寸法23・9×16・5種。洪染紙表紙。左肩に「伊勢物語七ヶ口訣裏説」〔玄旨法印説（朱）〕／狭衣三ヶ大事口訣／芦手書

之事」と墨書。

内題／〔扉題〕「伊勢物語七ヶ口訣裏説／狭衣三ヶ大事口訣／芦手書之事」。

内容／本文料紙楮。扉一丁。片面行数・一行字数ともに不定。

「伊勢物語七ヶ口訣裏説」〔…裏説と云は細川玄旨法印闕疑を撰ひ給時によき説を残して廿何ヶ条の説なり。是を裏説と云也。闕疑の趣と格別なり。長頭丸〕

「七ヶ口訣并秘説」〔正二位藤雅俊伝授の秘訣二条…〕「源氏」〔三箇の大事〕「葦籬」〔三ヶ秘訣〕等「狭衣 三ヶ大事口訣」〔…右三ヶ秘訣伝授之趣他

見不可有漏脱者也〕「首字之事」「芦泥書之事」

識語／「文政九年丙戌（一八二六）二月從芸窓師伝授／韻勝閣」〔芸窓師は笹原知是開か。天保二年没〕

蔵書印／「韻勝閣」〔單郭朱長円印〕「黒川真頼蔵書」〔單郭朱長方印〕「黒川真道蔵書」〔單郭朱長方印〕「黒川真前蔵書」〔單郭朱長方印〕

「物語」〔單郭朱丸印〕

『伊勢物語新釈』（黒川34）（七四七九一～七四七九六）

藤井高尚撰。映入り。版本（整版）六冊。袋綴（四孔黄・紺・紫・白の各糸）。

表紙／寸法25・0×17・9種。縹色空押（布目地）紙表紙。左肩に単郭白無地刷題簽貼付。題簽寸法18・0×3・5種。題

字「伊勢物語新釈 一（一六）」。また第一から第三冊目の題簽に「上巻」第四第五冊目題簽に「下巻」第六冊目題簽に

「下巻止」と朱書。さらに第一冊目表紙に「藤井高尚著／從初段至十一段」「真頼書入本」第二冊目表紙に「從十二段至

廿六段」第三冊目「從廿七段至四十七段」第四冊目「從四十八段至六十七段」第五冊目「從六十八段^持至八十六段^限」第六

冊目「從八十七段至百廿五段」と朱書。

内題／「伊勢物語新釈一（一六）の巻」。

版式／四周単辺（内郭18・2×13・1種）・無界（10行×27字内外）。版心に版心題「勢語新釈」と巻序・丁付を記載。

内容／本文料紙楮。序二種（文化十二年三月十一日渡辺重敏序・文化九年自序）総論・物語本文全文を掲示して注釈・自跋・源春野奥書・刊記。

自序／「…おのれがこたびのはさるわろきくせをはなれてものしたれば、新釈とは名づけたるになん。たゞし此新釈も一わたりに見てはなほ歌文になき事とりそへていへるやうに思ひなす人あるべし。この物語は歌も文も詞すくなく意をふかくこめたるものなれば、そのこめたる心をかきあらはすにつけては、詞をあまたそへてとく所もあればなり。されどそれはみな歌文の中にこめてある事をいふなれば、かのやうなきこととりそへていへるたぐひにはあらず。文化九年（二八二三）九月十五日 長門守藤井宿禰高尚」

跋／「讚岐国高松之里人源春野」（万葉仮名表記）

刊記／「文政元年戊寅（二八一八）九月彫成／奴弓能舎藏板／製本所〔京都吉田四郎右衛門／植村藤右衛門／城戸市右衛門／江

戸和泉屋庄次郎／大阪加賀屋弥助／河内屋儀助〕」

「三都書林（京都寺町通佛光寺）河内屋藤四郎／江戸日本橋通壺丁目須原屋茂兵衛／同貳丁目山城屋佐兵衛／同貳丁目須原屋新兵衛／同中橋

廣小路西官屋彌兵衛／同芝神明前岡田屋嘉七／同大傳馬町貳丁目丁子屋平兵衛／大阪心齋橋筋博労町角河内屋茂兵衛」

識語／「伊勢物語添注二冊清水濱臣著大學書籍部ニアリ。其ノ体源氏物語たみこと葉に似たり」（朱書）「伊勢物語上巻三十

九段にいたるはしたがふがおほちなりとアリ。順ハ源順なり。以て時代を攷ふべし」（墨書）「慶応二年五月聊書添愚存畢

黒川真頼」（朱書）

蔵書印／「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真頼」（單郭朱丸印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）。

備考／全冊に黒川真頼の朱筆書き入れあり。

『伊勢物語題号考』（黒川38）（七四八〇〇）

賀茂（松田）直兄著。帙入り。版本（整版）一冊。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法26・4×19・0糎。白地空押（手鞠）紙表紙。中央に無地刷題簽貼付。題簽寸法19・4×4・0糎。題字「伊勢物語題号考」。表紙右肩には「賀茂直兄考」と朱書。

内題／「伊勢物語題号考 賀茂直兄」。

版式／無辺（字高20・3糎）・無界（10行×22字内外）。版心に丁付（二、廿八。序の二丁分は丁付無し）。

内容／本文料紙楮。天保十五年（一八四四）八月賀茂重誠序・考証。（跋・奥書・刊記識語無し）。

蔵書印／「黒川真頼蔵書」（單郭朱長方印）「黒川真道蔵書」（單郭朱長方印）

備考／山岸1148（本稿では割愛）は山岸氏が作成させた該書の複製。

『伊勢物語箋』（黒川35）（七四七九七〜七四七九八）

橘守部著。帙入り。写本二冊。大和綴（緑糸）。

表紙／寸法27・0×19・2糎。金箔散らし小豆色水玉具引紙表紙。上冊は題簽剥離、右肩に「橘守部著」と朱書。下冊は

表紙中央に紅殻色空押（布目地）書題簽貼付。題簽寸法19・5×3・5糎。題字「伊勢物語箋 下」。

内題／（上冊巻首題）「伊勢物語 上 草稿」（下冊尾題）「伊勢物語終」。

内容／本文料紙楮。片面11行×行18字内外。物語本文全文を記して、本文中に囲み小文字で俗語を示す他、頭注に注釈を施す。（上冊）提要7丁・注釈初段〜56段（57段欠）（下冊）58〜127段・自跋。

提要／「一、もの語ふみをよまむには、まづ物語ふみの作れるやうをよく心得てよむべきなり。…一、此書は朱雀院塗

龍本・真名本・知頭抄本・古き素本一二本を以て校合せしなり。塗本は又、真名本ハ真、知頭抄ハ知と、かたはらにしるしおきぬ 橘守部」。

自跋／「菘舎のをちは、いそしの人にて、これらの書をあまたかきてゆつられぬ。遠き世につたへて、まめなる心をかたりつけなんとて 橘守部」

蔵書印／「黒川真頼蔵書」〔單郭朱長方印〕「黒川真頼」〔單郭朱丸印〕「黒川真道蔵書」〔單郭朱長方印〕「物語」〔單郭朱丸印〕。

備考／該書上冊に「草稿」とあるが、龍門文庫蔵自筆稿本〔下冊〕とは書式を異にする。また流布本より二段多いが、章段数を一つ書きとばしたとことと、山段を分けたことによる。

『伊勢物語注土代』（黒川36）（七四七九〇）

岸本由豆流著。帙入り。写本一冊。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法23・9跋17・1糶。洪染紙表紙。表紙左肩に「伊勢物語土代」、右肩に「岸本弓槻稿本」と墨書。見返し白紙。

そこに「尾張名所図會／卷六（卅二／ウ）名産貝品之内」として塩尻貝の絵を描いた付箋一枚を貼付する。

書式／本文料紙は三極紙・事務用箋（片面10行）・無界箋などを使用。片面行数・行字数ともに不定。内題無し。

内容／寛文八年山口記の序・総論・跋をはじめとして伊勢物語秘事所引惟清抄・伊勢物語秘事所引肖聞抄など諸注を抄出。諸本や諸抄について要点を抜粋したり、用語について諸文献からの出典例を引用する。跋・奥書・識語なし。

蔵書印／「黒川真頼蔵書」〔單郭朱長方印〕「黒川真頼」〔單郭朱丸印〕「黒川真道蔵書」〔單郭朱長方印〕「物語」〔單郭朱丸印〕。

備考／岩波『国書総目録』では該書のみ掲出。

『伊勢物語校本』（黒川39）（七四八〇一）

三田葆光著。帙入り。写本一冊。袋綴（四孔白糸）。

表紙／寸法26・3×18・9糎。縹色空押（布目地）紙表紙。左肩に白地単郭書題簽貼付。題簽寸法18・2×3・7糎。題字「伊勢物語校本」と墨書。表紙右肩に「三田葆光稿本」と朱書。黒川本通例の「物語」印が該書表紙には捺されていない。

内題／「伊勢物語校本」。

書式／本文料紙楮。片面9行×行29字内外。頭注・傍注付き。

内容／附言3丁・物語本文125段（頭注・傍注つき）・後遊紙二丁・墨付き五二丁。（跋・奥書・識語無し）。

附言／「一、此書本文ハ拾穂抄を原として臆断・古意・新釈等の異なる所々を、ことくしく色をわかつて傍にしるしつ

…明治十七年五月 平葆光」

蔵書印／「三多」（単郭朱小型正方印）。

備考／傍注は臆断を紫・古意を青・新釈を朱で記入。また黒川真頼説も頭注に墨書する。該書には黒川家の印が無いが、表紙の書き入れ朱書は他の黒川本にみかける筆跡である。

『伊勢物語校本』（黒川40）（七四八〇二）

三田葆光著。帙入り。写本一冊。黒川39の模本か。行取り・字数も一致する。

異同箇所／表紙寸法27・0×19・1糎。渋引紙表紙。表紙左肩に「伊勢物語校本 完本」、右肩に「三田葆光校合」と墨書。本文料紙三楮紙。後遊紙無し。

蔵書印／「黒川真道蔵書」〔單郭朱長方印〕「物語」〔單郭朱丸印〕。

(三) その他

『伊勢物語連歌・源氏物語抄』(山岸3919) (G一五一四)

新写本合一冊。袋綴(四孔白糸)。本文料紙三檜紙。

表紙／寸法27・4×19・5糎。洪染紙表紙。左肩に白地複郭書題簽貼付。題簽寸法18・5×3・6糎。題字「伊勢物語連

歌／源氏物語抄」と墨書。

内題／〔扉題〕「伊勢物語連歌／源氏物語抄」

【伊勢物語連歌】

内題／〔扉題〕「伊勢物語連歌」〔卷首題〕「大永元年(二五二)十月六日 賦〔伊勢物語連歌〕」。

書式／片面10行。連歌懷紙の書式。

句上げ／御製十六句・親王御方十・中務卿宮八・民部卿十・中御門大納言八・帥大納言九・冷泉前中納言十一・四条中納

言六・鷺尾中納言四・甘露寺中納言七・秀房朝臣六・長 淳一・重親四。

奥書／「此連歌筆者西洞院前大納言殿舍弟宋女正殿筆也。右卷冊山本氏被□得也。能泰〔花押〕」

【源氏物語抄】

内題／〔扉題〕「高野本源氏抄」〔朱書〕「末摘花」〔墨書〕

書式／片面9行×行14字。高野本末摘花の書写。

識語／「伊勢物語連歌一卷、能勢氏藏本也。（枕本而梅枝兩／吟合綴也。）昭和三年七月二三日半夜書寫了。翌日一校了。聊書附者也。岸廼舎」統群書類従本省略傍朱而頗惡本也。今得善本書寫者也。余以朱及墨付勢語之文歌□鶯尾中納言者二水記作者歟」

「末摘花断簡一卷以高野辰之博士本書寫者也。建長頃寫本歟。異本也（梗概書也）（朱）。昭和九年林鐘上澣 岸廼舎識（列帖裝也）（朱）。原本□偶誤、今訂正矣。下段之朱數字原本之順序也」。

藏書印／「山岸文庫」（複郭朱長方印）「山岸」（單郭墨小型丸印）「岸廼舎藏」（複郭朱長方印）

『異本伊勢物語』（黒川11）（七四七二九）

帙入り。新写本一冊。袋綴（五孔白糸）。

表紙／寸法32・5×22・7糎。香色無地紙表紙。左肩に「異本伊勢物語」と墨書。

内題／「伊勢物語」（扉題）

内容／本文料紙三極紙。扉一丁。物語本文（抄出）。狩使段より始まる。全19段37首。片面8行×行16字内外。奥書無し。

識語／「残数二捨四葉」。

藏書印／「黒川真頼藏書」（單郭朱長方印）「黒川真頼」（單辺朱丸印）「黒川真道藏書」（單郭朱長方印）「物語」（單郭朱丸印）

備考／抄出本。底本には絵が入っていたようだが、該書は絵を写さず、「絵」（朱）とのみ注記する（二六カ所）。片桐洋一『伊勢物語の研究 資料篇』（昭和四四年明治書院）所収「東博本異本伊勢物語絵巻翻刻」に対校本として紹介された。

『伊勢物語歌絵』（文芸資料研究所）

居初氏女（居初津奈か）筆。木箱入り。卷子本一卷。

表紙／金襴緞子布表紙。表紙寸法32・1×25・1糎。白地に金箔散らし書題簽添付。題簽寸法17・6×3・4糎。題字「伊勢物語歌絵」と墨書。押竹。平織り小豆色紐、爪有り。見返し白紙。

内容／厚手の鳥の子紙（全長517・6糎）。裏打ち済み。内題なし。「ひじき藻」「芥川」「盗人」「筒井筒」（「筒井筒」と「河内越え」の二話）「花の宴」の各段より本文を抄出し、各本文のあとに当該文に相当する絵（六場）を描く。全文一筆。

書写奥書／「居初氏女書画」

備考／絵は等軸側投影法。「河内越え」の琴など、一部嵯峨本との共通性も見られるが、物語本文には異同が目立つ。筆跡は居初津奈「女書翰初学抄」と似ている。平成十三年購入。